

埃及法律書民法  
完

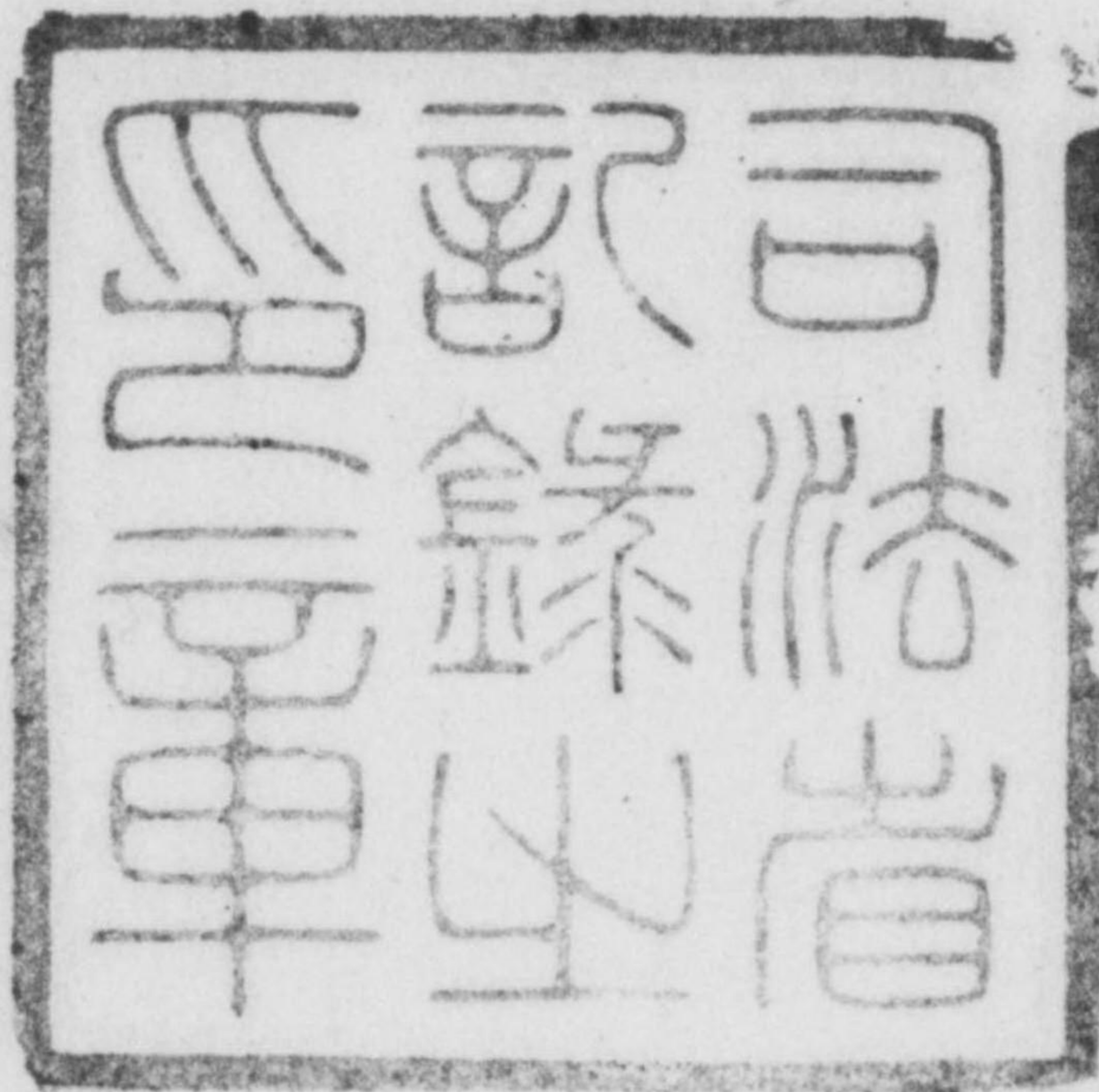
寫本  
埃及法律書  
民法  
第五百七十六號  
第十卷  
完

第 六	第 三 架	第 六 號
--------	-------------	-------------

司法省  
寄贈圖書文庫







B870

M3-7

莫作麟祥沃



明七  
臨時第九号、内

三十二葉半



埃及法  
律書  
民法草案

卷一



B300  
M17  
2

埃及法  
律書  
民法草案

權大内史冥作麟祥 譯

○前加篇

第一條 此律例中、諸法律ハ新ナル裁判所ヲ  
關日ヨリ全國地内ニ之ヲ施行ス可シ

第二條 其法律ハ既往ニ之ヲ施行ス可カラス

○然レハ訴訟法律及ヒ裁判所管轄<sup>コンペタンス</sup>、法律ハ

新ナル裁判所ヲ關ク前、義務ヨリ生シタル  
争訟ヲ裁定スルニ之ヲ適用ス可シ

第三條 新ナル裁判所ノ管轄タル可キ訴訟ニ

付キ從來ノ裁判所ニ於テ既ニ其本案ノ始審

確定ノ裁判ヲ為シタルトキ時ハ新ナル裁

判所ニ於テ引續キ其訴訟ヲ為ス可シ

新ナル裁判所ニ於テ、訴訟ハ從來ノ裁判所

ニ於テ為シタル最終ノ訴訟手續ヨリ引續テ  
之ヲ為ス可シ

第四條 人ノ身分及ヒ權利、夫婦結縁中ノ規則、

遺物相續、推遺囑贈遺、推後見及ヒ管財ニ

關シタル訴訟ハ本人ノ國ノ法律ニ循テ之ヲ

裁判ス可シ ○新ナル裁判所ニ於テハ此等ノ



訴訟ヲ附帶ノ訴訟ト爲シ裁判スルヲ得可キ  
ノミトス又其新ナル裁判所ニ於テハ管轄  
裁判所ニテ此附帶ノ訴訟ヲ裁判ス可キ期限  
ヲ定ムルヲ得可シ

第五條 不動産ハ從今外國人ノ有スルモノト  
雖本國ノ法律ニ循ヒ之ヲ支配ス可ク且本  
國ノ裁判所ニ非サレハ不動産ノ物權ニ付キ  
裁判ヲ爲ス可カラズ

第六條 警察ノ法律及ヒ國中安寧ノ法律ハ何  
人ニ限ラズ國內ニ住スル者之ヲ遵守ス可シ

第七條 法律ノ所缺不備不明ナル時ハ裁判後  
公平ノ規則ニ循フ可シ

第八條 此法律ヲ増補シ又ハ變更セントスル  
時ハ裁判役仲ケ間ノ協議ヲ得可ツ又已ムラ  
得ナル時ハ裁判役仲ケ間ヨリ之ヲ申立ツ可  
シ

第九條 何人ニ限ラズ本國人ハ從今外國ニ於  
テ取結ビタル契約ノ為メト雖モ本國ノ裁判  
所ニ呼出スルヲ得可シ

第十條 本國內ニ住スル外國人又ハ裁判所ハ



呼出レ、ヲ受クルヨリ前六月以内ニ本國ヲ去  
リタル外國人モ亦本國ノ裁判所ニ呼出ス  
ヲ得可シ但シ被告人ノ居所如何ヲ問ハス法  
律上ニ定メタル場合ニ於テ商法裁判所ノ管

轄ヲ受ク可キ時ハ此例ニ非ス

第十一條 又刑法裁判所ハ外國人ノ居所如何

ヲ問ハス其管轄タル輕重ノ罪犯ヲ裁判ス可

レ



第一篇 財産

第一章 財産の種類

第十二條 財産ハ動産又ハ不動産ナリトス

第十三條 天然又ハ人工ニ因リ移動ス可カラ

サル様固着シ之ヲ運轉スル時ハ必ス毀損破

壊ス可キ財産ト其財産ニ付テ、物推トテ不

動産トス

第十四條 其他ノ財産ハ皆動産ナリトス

第十五條 法律上ニ用フル「モビリエ」<sup>「モビリエ」</sup>「エ」<sup>「エ」</sup>「ワ」<sup>「ワ」</sup>「フ」<sup>「フ」</sup>

「モ」<sup>「モ」</sup>「ビ」<sup>「ビ」</sup>「リ」<sup>「リ」</sup>「エ」<sup>「エ」</sup>「ー」<sup>「ー」</sup>「ゴ」<sup>「ゴ」</sup>「ア」<sup>「ア」</sup>「ン」<sup>「ン」</sup>「ミ」<sup>「ミ」</sup>「ユ」<sup>「ユ」</sup>「ウ」<sup>「ウ」</sup>「ガ」<sup>「ガ」</sup>「ル」<sup>「ル」</sup> 共ニ皆動産ノ義

各語ハ共ニ皆動産指シ六ニ取テ其差別アル

トナレ

第十六條 然レモ土地ノ所有者ニ属スル農業

ノ器具及ヒ農業ニ必要ナル獸類並ニ製造所

ノ所有者ニ属スル製造所ノ器具器物ハ其附

属スル不動産ヨリ之ヲ分離ス可カラサルヲ

以テ之ヲ不動産ト看做ス可シ

第十七條 財産ニ付テハ其資益ヲ得ル者ニ管

シテ数種ノ推利ヲ生ス可シ但シ其權利ハ左

ノ如シ



第一 所有ノ推

第二 入額所得ノ推

第三 土地ノ推

第四 此債主ノ彼ノ債主ヨリ先キニ償ラ

得ルノ物推レバ<sup>「アリウイ</sup>不動産書入質ノ物推

<sup>「イボラ</sup>不動産引留ノ推<sup>「レヲタシ</sup>

第十八條 人民所有ノ全権ヲ得可キ財産ヲ名

ケ<sup>「ミユル</sup>ク財産ト云フ

第十九條 所有ノ推ハ<sup>「官ニ</sup>属シ官ヨリ規則書

ニ定メタル場合ト約束トニ循ヒ人民ニ其入

額所得ノ推ヲ讓リシ財産ヲ名ケ<sup>「アラヂ</sup>財

産又納貢財産<sup>「ビュアン、トル</sup>ト云フ

第二十條 寺院ノ所有スル<sup>「マ</sup>ルンモルト<sup>「讓</sup>人

渡ス可カラ<sup>「ナ</sup>ル財産ノ財産ヲ名ケ<sup>「ワ</sup>クフ<sup>「財</sup>産ト云フ

但シ其財産ノ入額所得ノ推ハ規則書ニ定メ

タル約束ヲ以テ人民ニ讓リ渡ス<sup>「ラ</sup>得可シ

第二十一條 現今所有者ナク何人ニ限ラス最

初ニ占有セ<sup>「レ</sup>者ノ所有トナル可キ財産ヲ名

ケ<sup>「相</sup>由財産又<sup>「ム</sup>ウバ<sup>「財</sup>産ト云フ

第二十二條 然レ<sup>「レ</sup>前條ノ財産ハ政府ノ許可



ヲ得タル上ニテ規則書ニ定メシ約束ニ循フ  
ニ非サレハ之ヲ占有ス可カラズ

第二十三條 城寨港口等ノ如キ官ノ財産ハ之  
ヲ私有ス可カラズ

第二十四條 道路橋梁市街等ノ如キ共同資益  
ノ財産モ亦前條ト同シ

第二章 所有ノ推

第二十五條 所有ノ推トハ財産ヲ用ヒ或ハ之  
ヲ譲リ渡シ或ハ然ノミナラス之ヲ破滅ス可  
キ全推ヲ云フ

第二十六條 財産所有ノ推アル者ハ天然又ハ  
人工ヲ以テ其財産ヨリ生スル諸物並ニ其財  
産ニ附加スル諸物ヲ所有スルノ推アリ

第三章 入額所得ノ推

第二十七條 入額所得ノ推トハ他人ノ所有ス  
ル財産ヲ用ヒ其資益ヲ得ルノ推ナリ

第二十八條 入額所得ノ推ハ之ヲ譲リ與フル  
契約又贈遺ニ因リ更ニ之ヲ減ス可キヲ譬ヘ

ハ其推ヲ減シテ「ユガ」ジユノ推  
他人ニ属スル利益中ニテ已レニ必要ノ部分ヲ所得ト為ス一身ノ  
ニ属スル推佛蘭西民法第六百廿五條以下ニ詳ナリ



及ヒ「アビタシヤン」ノ推他人ニ屬スル家屋ニ位

六百止五條以下ニ詳ナリト為ス可キカ如シ

第二十九條 入額所得ノ推ハ一時ノモノアリ

又ハ永久ノモノアリ

第三十條 人民等ノ間ニ於テハ入額所得ノ推

ヲ必ス一時ノモノト為ス可シ

第三十一條 入額所得ノ推ハ現時既ニ出産セ

シ者ノ為ニ非レハ之ヲ設ケ定ム可カラス

又其推ハ何ノ場合ニ於テモ之ヲ得タル者ノ

死去ニ因リ終ル可シ但シ其死去スル前ニ預

定ノ期限ニ至リシ時ハ格別ナリトス

第三十二條 然レモ遺囑ノ贈遺ヲ為シテ財產

所有ノ權ヲ「ワク」フ財產事務宰相ノ管轄タル

公舎ニ與ヘ其入額所得ノ推ヲ一人又ハ数人

及ヒ其宗系ノ遺物相續人ニ與フルヲ得可

シ但シ此場合ニ於テハ入額所得ノ推ヲ得タ

ル一家ノ者盡ク死去シタル後ニ非サレハ其

公舎ニ於テ入額所得ノ推ヲ得可カラス

第三十三條 官ヨリ規則書ノ箇條ニ循ヒ「アラ

キ」ル地ノ入額所得ノ推ヲ與ヘタル時ハ其



権ヲ永久ノモノト為スヲ得可シ

第三十四條 前條ノ場合ニ於テハ入額所得ノ  
権ヲ得タル者其全部又ハ一部ヲ更ニ他ニ讓  
リ與ヘ又ハ書入質ト為スヲ得可シ

第三十五條 「ワック」財産事務宰相局ヨリ入額  
所得ノ権ヲ得タル者ハ千二百八十四年「サッ  
ブル」月七日「西洋紀元」千八百六十七年六月十  
日ノ法律ニ循ヒ其権ヲ更ニ他人ニ移スヲ  
得可シ

又其者ハ其権ヲ期限ヲ定メテ貸與ヘ又ハ質

入ト為スヲ得可シ

第三十六條 入額所得ノ権ヨリ生スル權利及  
ニ義務ハ之ヲ讓リ與フル證書ノ約束ト左ノ  
規則トニ循テ之ヲ規定ス可シ

第三十七條 入額所得者ハ財産ヲ其用法ニ循  
ヒ用フ可シ

第三十八條 若シ動産ノ入額所得ノ権ヲ讓リ  
與フル時ハ其目錄ヲ作りテ保証人ヲ立テシ  
ム可シ若シ保証人ヲ立ツル能ハサル時ハ動  
産ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ國債証券ヲ買入レ



其入額ヲ入額所得者ニ渡ス可シ

第三十九條 入額所得者ハ使用シテ消耗スル

品物ヲ用フルトテ得可シト雖モ其推ノ終ニ

至リ之ト同種ノ品物ヲ還サ、ルヲ得ス

第四十條 入額所得者ハ偶然死シタル獸類ヲ

補フニ増殖シタル獸類ヲ用ヒ猶其餘分アル

時ハ之ヲ已レノ得分ト為スヲ得可シ

第四十一條 入額所得者ハ已レノ過失ニ非ラス

シテ品物ノ滅盡シ又ハ毀損シタル時其責ニ

任スルヲナシ

第四十二條 入額所得者ハ修理ノ費用ヲ擔當

ス可ク且所有者ニ其費用ヲ出ス可キ旨ヲ迫

ル可カラス

第四十三條 入額所得者ハ所有者ハ承諾ナク

シテ造営又ハ植附ヲ為ス可カラス但シ入額

所得者ハ所有者ノ書面自認誓詞ヲ以テ其承

諾ノ証ヲ立ツ可シ

第四十四條 入額所得ノ推ハ預定ノ期限ノ至

リシニヨリ又ハ自カラ其推ヲ拋棄シタルニ

ヨリ又ハ財産ノ滅盡シタルニヨリ又ハ入額



所得者、其財産ヲ毀損シタルニ因リ消散ス  
可シ但シ之レカ為メ書入質ノ権アル債主ノ  
権利ヲ害ス可カラス

第四十五條 又入額所得ノ権ハ入額所得者ノ  
其預定セシ約束ヲ執行ハサルニ因リ取消ス  
トヲ得可シ但シ之カ為メ書入質ノ権アル債  
主ノ権利ヲ害ス可カラス

第四十六條 アラゲル財産ノ入額所得者若シ  
其貢賦ヲ納レサル時ハ其権ヲ失フ可シ但シ  
之レカ為メ書入質ノ権アル債主ノ権利ヲ害

ス可カラス

第四十七條 官有ノ地ノ入額所得者若シ其地  
ニ付テノ租税ヲ納レサル時ハ其租税ノ額ニ  
充ル迄其地ノ入額所得ノ権ノ一部ヲ取上ケ  
之ヲ賣拂フノミトス

第四十八條 又入額所得者十五年間其財産ヲ  
用ヒサル時ハ其権消散ス可シ

納貢地及ヒアバキ<sup>土地ノ種</sup>ノ入額所得者  
五年間其地ヲ耕耘セス捨テ置ク時ハ其入額  
所得ノ権ヲ失ヒ規則ニ循テ其権ヲ賣賣ニ為



不可

第四章

土地ノ権利

甲ヨリ乙ニハ推利

ハ義務ト稱ス可キニ目リ此書中或ハ

云

第四十九條

土地ノ義務トハ此不動産利益ノ

為メ彼不動産ニ負ハシムル義務ヲ云フ

土地ノ義務ハ之ヲ設ケ定ムル証書ト土地ノ

習慣トニ從ヒ規定ス可シ

第五十條

官府又ハ會社ノ造リタル溝渠ノ水

ヲ用フルノ推限ハ其水ヲ灌ク可キ土地ノ大

小ニ准ス可シ但シ此事ニ付キ設ケタル監事

局ニ管スル法律ニ定メレ所ハ格別ナリトス

第五十一條

溝渠ヲ造リシ者ハ其溝渠ノ水ヲ

用ヒ又ハ之ヲ賣ルノ特権アリ

第五十二條

何人ニ限ラス水ヲ取ル場所ヨリ

最ニ遠キ土地ノ為メ必要ナル水ヲシテ已レ

土地内ヲ通セシメサル可カラズ但シ之レ

カ為メ裁判所ヨリ定メタル償ヲ得可ク若シ

其償ニ付キ争ノ起ル時ハ裁判所ヨリ可成夫

損害ヲシテ少カラシムル様通水ノ道ヲ設ク



可キ造営ノ方ヲ定ム可シ  
然レモ器械ヲ備ヘ又ハ溝渠ヲ造リ已レ土地  
ニ水ヲ引ク者ハ其下ノ土地ノ所有者ヲシテ  
強テ其水ヲ受ケシム可カラズ

第五十三條 家屋ノ下階ノ所有者ハ上階ノ頌落  
スルヲ防クニ必要ナル造営ヲ為ス可シ  
若シ下階ノ所有者家屋ヲ堅牢ナラシムルニ  
必要ナル造営ヲ為スヲ肯クサル時ハ其家屋  
中ニテ其者ニ屬スル部分ヲ賣拂フ可キヲ  
言渡スヲ得可シ

何レノ場合ニ於テモ急速ニ為ス可キ造営ノ  
執行ハ至急<sup>レテ</sup>吟味ノ裁判後ヨリ之ヲ言渡ス  
ヲ得可シ

第五十四條 上階ノ所有者ハ下階ノ害トナル  
可キ造営ヲ為ス可カラズ

第五十五條 下階ノ所有者ハ天井ヲ修覆ス可  
ク又其者ニ屬スルト思料ス可キ梁椽ヲモ修  
復ス可シ(上階ノ所有者ハ其階ノ踏歩スル  
樓板ヲ修復ス可ク又梯子中ニテ下階ノ所有  
者ノ為メ入用ナラサル所ヨリ上ノ部分ヲ修



復ス可シ

第五十六條 若シ造作、破壊セル時、下階、所有者已ニ屬スル階ヲ修復ス可シ若シ其修復ヲ為シ、ル時、其者ニ屬スル階ヲ裁判所ノ命ニテ賣拂フヲ得可シ

第五十七條 何人ニ限ラス其隣人ヲシテ強テ塙牆ヲ造ラシム可カラス又其隣人ノ塙牆、一部又ハ其塙牆所在ノ地ヲ強テ已ニ讓ラシム可カラス

第五十八條 又塙牆ノ所有者、至重ノ原目アルニ非ナレハ、繞圍ヲ設ケシ隣人ノ土地ヲ害ス可キ様故ニ其塙牆ヲ毀ツ可カラス

第五十九條 何人ニ限ラス一ノリトシテ大約二メートルト三分二ヨリ少キ距離ニ於テ其隣地ヲ直視ス可キ窓ヲ造ル可カラス

第六十條 其距離、窓ヲ造ル牆壁ノ外面ヨリ之ヲ計リ又ハ縁側及ヒ其他家屋ノ突出セシ部分ノ外部ノ線ヨリ之ヲ計ル可シ

第六十一條 製造所、井戸、蒸気器械及ヒ其他何物ニ限ラス隣地ノ害トナル可キ諸般ノ工業



造営ハ規則書ニ定メタル距離ト約束トニ循  
ヒ之ヲ設ク可シ

第六十二條 何人ニ限ラス土地ノ所有者ハ雨  
水及ヒ家内ニ用ビタル水ヲ其土地又ハ往還  
ニ注流セレハ可シ但シ此事ニ付テハ健康保  
全ノ規則ヲ遵守ス可シ

第六十三條 他人ノ所有スル土地ニ周圍ヲ繞  
環セラレシ己ノ土地ヨリ往還ニ出ル通行路  
ヲ設クル權ヲ行フニ付テハ裁判所ヨリ其通行  
路ヲ設クル權ヲ行フ方法ト其權ヲ行フニ付

テ出ス可キ償高トヲ定ム可シ

第五章 所有ノ權及ヒ物權ヲ得ル  
ノ方法

第六十四條 所有ノ權及ヒ物權ハ左ノ方法ヲ  
以テ之ヲ得可シ

- 義務ノ効
- 生存中ノ贈遺
- 遺物相續及ヒ遺囑ノ贈遺
- 所有者ナキ財産ヲ已レノ有ニ歸スル權

プロパ  
ア  
レ  
ヲ  
ン



○主ニ因テ從ヲ併ス推<sup>ア</sup>クセツ

○先キ買ヲ為ス推<sup>ア</sup>レ<sup>ア</sup>シ<sup>ア</sup>ム

○期滿得免ノ推<sup>ア</sup>レ<sup>ア</sup>ス<sup>ク</sup>リ

第一款 義務ノ効

第六十五條 動産及ヒ不動産所有ノ推ハ之ヲ  
典<sup>フ</sup>可キ義務ノ効ニ因リ之ヲ得可シ但シ其  
財産義務ヲ負フタル者ノ所有タル時ニ限ル  
可シ

第六十六條 又動産ニ付テハ之ヲ引渡ス者其  
所有者ニ非サル時ト雖正當ノ名義ニテ引

渡ヲ為シ且之ヲ受取ル者モ亦正當ナルニ於  
テハ其引渡ニ因リ動産所有ノ推ヲ得可シ但  
シ真ノ所有者其動産ヲ失ヒ又ハ之ヲ盜奪セ  
ラレタル時ハ後ニ之ヲ已<sup>レ</sup>ニ取戻サント訴フ  
ルノ推アリ

第六十七條 不動産ニ付テハ法律上ニ定メタ  
ル簿冊登記ノ法式ヲ行フタル上ニ非サレハ  
管係ナキ者ニ對シテ其所有ノ推及ヒ其物推  
ヲ得タルモノト為ス可カラズ

第二款 生存中ノ贈遺



第六十八條 贈遺ト為シタル動産及ヒ不動産  
所有ノ権ハ其贈遺ヲ為シタルト之ヲ受ケタ  
ルトニ因テ之ヲ得可シ但シ贈遺ノ證書ヲ他  
ノ契約書ノ体裁ニ記セサル時ハ贈遺ヲ為シ  
タルト之ヲ受ケタルトヲ公正ノ證書ニ記ス  
可ク若シ之ヲ記セサル時ハ其贈遺ノ効ナカ  
ル可シ

第六十九條 動産ニ付テハ贈遺ヲ為ス者現ニ  
之ヲ引渡シ贈遺ヲ受クル者之ヲ受取リタル  
時ハ公正ノ證書アラスト雖モ其贈遺ヲ成就

シタルモノトス

第七十條 若シ贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ承諾ス  
ル前ニ贈遺者ノ死去シ又ハ行権ノ禁ヲ受ク  
ル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第七十一條 死去シタル贈遺者ノ遺物相續人  
又ハ行権ノ禁ヲ受ケタル贈遺者ノ名代人ハ  
其贈遺ヲ受クルヲ得可シ

第七十二條 何人ニ限ラズ其現時ノ債主ノ害  
トナル可キ贈遺ヲ為ス可カラズ

第七十三條 不動産ノ贈遺ハ贈遺ノ證書ヲ簿



冊ニ登記ス可キ規則ニ記シタル所ノ外他人ニ對シテ其効ナカル可シ

第七十四條 何人ニ限ラス其債主ノ權ヲ害シ

ワクワフ地ノ名義ヲ以テ其財産ヲ人ニ讓リ渡ス可カラサル者ト定ム可カラス若シ斯ノ如ク定ムルト雖モ其効ナカル可シ

第三款 遺物相續

第七十五條 遺物相續ハ死者ノ屬スル國ノ法律ニ循テ之ヲ規定ス可シ

第七十六條 然レモ「ワクワフ」地又ハ納貢地ノ入

額所得ノ權ヲ相續スル權利ハ本國ノ法律ニ循テ之ヲ規定ス可シ

第七十七條 遺囑贈遺ヲ為スノ權及ヒ遺囑贈遺

證書ノ書法ハ本人ノ屬スル國ノ法律ニ循テ之ヲ規定ス可シ

不動産ニ付テハ遺物相續人ノ為メ財産ノ一部分ヲ遺シ置ク事及ヒ遺囑贈遺者ノ隨意ニ為スヲ得可キ財産ノ部分ヲ定ムル事等ノ為メ不動産所有ノ權ヲ解除スルノ規則アリト雖モ正實ニ其不動産ヲ買入レタル者ノ權利



及ヒ其不動産ニ付キ書入質ノ権アル債主ノ  
権利ヲ害ス可カラス

第四款 所有者ナキ財産ヲ已レノ有  
ニ歸スル権

第七十八條 所有者ナキ財産ヲ已レノ有ニ歸ス  
ル権ニ因リ何人ニ限ラズ所有者ナキ財産ヲ  
最初ニ已レノ有ト為シタル者ハ其所有ノ権ヲ  
得可シ

第七十九條 未タ開墾セサル官地ニ付テハ官  
ノ免許ヲ得タル上ニテ地方規則ニ循ヒ「アバ

チ」ヲ設ケ定ムルニ非サレハ之ヲ所有ト為  
ス可カラス

第八十條 然レモ右ノ地ヲ開墾シ又ハ之ニ植  
附ヲ為シ又ハ之ニ家屋ヲ造築セシ者ハ其開  
墾、植附、造営ヲ為シタル部分ノ所有者トナル  
可シ然レモ最初ノ十五年間ニ於テハ其所有  
者トナリシ者五年間之ヲ用ヒサルニ因リ其  
所有ノ権ヲ失フ可シ

第八十一條 以前ノ所有者ヲ知ル可カラサル  
埋没セシ財貨ハ其上地ノ所有者ニ屬ス可シ



第八十二條 若シ埋没セシ財貨ヲ見出セシ土

地ニ其所有者アリタル時ハ之ヲ見出セシ者

ニ其財貨ヲ属ス可シ但シ何レノ場合ニ於テ

モ規則ニ循ヒ官ニ税額ヲ納メシム可シ

第八十三條 捕魚狩獵ニ管スル權利ハ別段ノ

規則ヲ以テ之ヲ規定ス

第五款 主ニ回テ從ヲ併スノ權

第八十四條 河川ノ傍側ニ生スル漸積ノ地ハ

其傍側ノ地ノ所有者属ス可シ

第八十五條 河川ノ為メ移去セラレタル土地

及ヒ河川中ニ生レタル島洲ノ所有ノ權ハ千

二百七十四年ノ命令書ニ循テ規定ス可シ

第八十六條 湖沼ノ漸積ノ地ハ其湖沼ノ所有

者ニ属ス可シ

第八十七條 海岸ノ漸積ノ地ハ官ニ属ス可シ

第八十八條 所有地ノ境界ヲ以前ニ復スル為

メ外海ヲ埋立ツルヲ許サス

第八十九條 土地ノ所有者ノ明許ヲ得テ別段

其所有者ノ權利ヲ保テ置ク可キ約束ナク其

地ニ造営ヲ為シ又ハ植附ヲ為シタル者ハ其



造営ヲ為シタル土地又ハ植附ヲ為シタル土地ノ部分ノ所有者トナル可シ

第九十條 土地ノ所有者別致已レノ權利ヲ保テ置ク可キ約束ナクシテ其造営又ハ植附ヲ為ス可キコトヲ明許シタルノ證アラサル時ハ唯其土地ヲ貸渡シタルト看做シ其所有者ハ其造営ヲ毀テ又ハ樹木ヲ拔キ之ヲ移去スルヲ要メ或ハ其品物ノ價ト工價トヲ償ヒ其造営又ハ植附ヲ已レノ有ニ歸スルコト自由ナリトス

第九十一條 若シ其造営又ハ植附ヲ為シタル

者自カラ其土地ノ所有者タルヲ信思ス可キ道理ナル時ハ其造営又ハ植附ヲ取除カレム可カラズ但シ此場合ニ於テ眞ノ所有者評價人ノ説ニ從ヒ其土地ノ價ノ増シタル高ヲ償フテ其造営又ハ植附ヲ已レノ有ニ歸スルコトヲ得可シ

第九十二條 若シ所有者ヲ異ニスル二箇ノ動産互ニ連合シテ之ヲ離分スル時ハ必ず損害ヲ生ス可キニ於テハ裁判所ヨリ公平ノ規則ニ循ヒ其動産ヲ離分スルニ付テノ損害ト所有



者双方ノ換様及ヒ其正實ナルマ否トニ注意  
シ其離分ヲ言渡ス可シ

第六款 不動産ニ付テノ先買ノ権

第九十三條 造営ヲ為シ又ハ植附ヲ為スヲ承  
諾シテ已レノ地ヲ貸渡シタル者ハ未タ其貸渡  
期限ノ終リニ至ラスト雖モ其買主ニ整ニ通  
リノ價高ヲ拂ヒ先買ヲ為スノ権アリ

第九十四條 他人ト共通シテ不動産ヲ所有ス  
ル者ハ其共通ノ所有者仲ケ間ヨリ賣リタル  
部分ヲ已レヨリ以前ニ先買ノ権ヲ得タル者ヲ

除クノ外總テ其他ノ者ヨリ先キニ買取ルノ  
権アリ但シ之ノ爲ニハ其價高ト正當ナル  
費用高トヲ拂フ可シ

第九十五條 他人ト共通シテ不動産ヲ所有ス  
ル者ハ嘗テ其共通ノ所有者仲ケ間ニシテ當  
時其買入人トナリシ者ニ對シ先買ノ権ヲ行  
フヲ得可シ但シ當時ノ共通ノ所有者仲ケ  
間ヨリ其先買ノ権ニ因リ資益ヲ得可キヲ  
求ムル時ハ其資益ヲ得セシメサル可カラズ

第九十六條 右先買ノ権ハ生存中ノ贈遺ヲ得



タル者ニ對シ又ハ賣買交換ニ非サル方法ニ  
回リ不動産ヲ得タル者ニ對シ之ヲ行フ可カ  
ラス

第九十七條

共通シタル不動産ノ部分ニ付キ

「フリッ」ノ設置回リ人ニ譲リ渡ヌ可カラサル  
所有ノ權ヲ得タル者ハ先買ノ權ヲ行フ可カ  
ラス然レ其所有ノ權ヲ授與スル者ハ其授  
與ノ為メ先買ノ權ヲ行フヲ得可シ

第九十八條

又不動産ヲ共通シテ所有スル者

其買主ノ共通所有ノ權ヲ認ムル所為ヲ行フ

タル時ハ先買ノ權ヲ行フ可カラス

第九十九條

不動産ニ隣レル地ノ所有者ハ先

買ノ權ヲ行フ可キ者二人ニ次キテ其不動産  
先買ノ權ヲ行フヲ得可シ

第百條 裁判所ニ於テ賣拂ヲ為シタル時ハ先

買ノ權ヲ行フ可カラス

第百一條

何レノ場合ニ於テモ先買ノ權アル者

ハ其權ヲ行フヤ否ノ問ヲ受ケタルヨリ二十  
四時内ニ不動産ヲ引取ル可キノ意ヲ表ス可  
ク若シ其定期内ニ其意ヲ表セサル時ハ先買



ノ権ヲ失フ可シ但シ其者ノ居所ノ隔リタル  
時ハ古二十四時ノ期限ニ相當ノ猶豫ヲ加フ  
可シ

第七款 期滿得免ノ権

第百二條 財産所有ノ権ト不動産書入質ノ権  
ヲ除キタル以外ノ物権トハ明カニ其所有者  
タル名義ヲ以テ五年間絶エス公ケニ妨ナク  
其財産ヲ自身ニ占有シ又ハ名代人ヲシテ占  
有セシメタルニ曰リ之ヲ得可シ但シ之カ為  
メニハ其占有者正当ノ名義アルヲ必要ト

シ若シ其占有者ニ正當ノ名義ナキ時ハ十五  
年間占有セシ後ニ非サレハ其所有ノ権ト其  
他ノ物権トヲ得可カラズ

第百三條 期滿所得ノ権ヲ行フ者ハ其財産ヲ  
已レニ譲リシ者ノ占有期限ヲ申立テ自己ノ資  
益ト為スヲ得可シ

第百四條 特ニ定メタル既往ノ時ト現今トニ  
於テ財産ヲ占有シタルノ證アル時ハ其中間  
ノ時ニ於テモ亦之ヲ占有シタルト看做ス可  
シ但シ之ニ反シタル證アル時ハ格別ナリト



ス

第百五條 知貢地ノ占有者其地ヲ開墾スル時  
ハ五年間之ヲ占有シタルニ因リ其地ノ入額  
所得ノ推ヲ得可シ

第百六條 何人ニ限ラズ已レノ有スル名義又ハ  
已レニ財産ヲ譲リシ者ノ有シタル名義ニ反キ  
期滿所得ノ推ヲ得可カラズ故ニ貸銀ヲ出シ  
テ土地ヲ借受クル者入額所得者預リ人借主  
又ハ此等ノ者ノ遺物相續人ハ其財産ニ付キ  
期滿所得ノ推ヲ得可カラズ

第百七條 然レ正實ニ不動産書入質ノ推ヲ  
有スル債主ハ之ヲ質物ト為シタル負債者ノ  
五年間之ヲ占有セシ者ヲ申立テ他人ノ訴ヲ  
抗拒スルヲ得可シ但シ之ヲ為メニハ古ノ  
債主其負債者ヲ不動産ノ真ノ所有者ナリト  
思フ可キ道理アルノ證ヲ立ツ可シ

第百八條 何人ニ限ラズ預ノ期滿得免ノ推ヲ  
拋棄ス可カラズ  
然レ已レノ推ヲ自由ニ行フヲ得可キ者ハ  
既ニ得タル期滿得免ノ推ヲ拋棄スルヲ得



可シ

第百九條 若シ期滿得免ノ權ヲ得可キ定期間

ニ妨ケテ受ケタル時ハ其妨ケテ受ケタルヨリ  
以前ニ占有シタル時間ヲ期限ノ算計中ニ加  
フ可カラス

第百十條 占有者已レノ所為ニ回ルト他人ノ所

為ニ回ルトヨ尚ハス若シ其占有ノ權ヲ失フ  
タル時ハ期滿得免ノ權ヲ得可キ定期間ニ妨  
ケテ受ケタルモノトス可シ

第百十一條 若シ真ノ所有者占有者ヲ裁判所

ニ呼出シ又ハ占有者ニ法式ニ適フタル催促  
書ヲ送り已レノ權利ヲ復セント為シタル時ハ

縱令其儘ニテ其訴訟ヲ繼續シ行フコトナシト

雖モ占有者期滿得免ノ權ヲ得可キ定期間ニ

妨ケテ受ケタルモノト為ス可シ但シ真ノ所

有者其訴訟ヲ為ス可キ期限ヲ經過セシナク

ルニ回リ終ニ其訴訟ヲ為ス可キ權ヲ失フタ

ル時ハ格別ナリトス

第百十二條 本人ト名代トノ間ニ於テハ總

ニ其名代委任ノ證書ニ記スル諸件ニ付キ期



満得免ノ権ヲ得可ラス

第百十三條 不動産ニ付テノ期満所得ノ権ハ  
法律ニ循ヒ已レノ権利ヲ行フヲ能ハサル者ニ  
對シ之ヲ得可カラス

第百十四條 又前條ニ記スル所ノ外五年以上  
ノ期満得免ノ権ハ已レノ権利ヲ行フヲ能ハサ  
ル者ニ對シ之ヲ得可カラス

第百十五條 盜奪セラレシ品物又ハ遺失シタ  
ル品物ノ所有者ニ對シテハ三年ノ時間ヲ以  
テ期満所得ノ権ヲ得可シ

第百十六條 然レモ盜奪物又ハ遺失物ヲ正實  
ノ意ヲ以テ其類ノ品物ヲ賣買スル商人ヨリ

買入レタル者又ハ公ケノ市場ニ於テ之ヲ買  
入レタル者ハ之ヲ取戻サントスル真ノ所有者  
者ニ對シ已レノ拂フタル代金ノ償還ヲ得ント  
要ムルノ権アリ

第六章 所有ノ権及ニ物權ヲ失フ事  
第百十七條 何人ニ限ラス左ノ場合ニ於ケル  
外ハ財産所有ノ権ヲ失フヲナカル可シ

第一 其所有ノ権他人ニ屬スルノ證分明



ナル時

第二 法律上ニ定メタル場合ト法式トニ  
循ヒ債主ノ求メニ回リ財産所有ノ権ヲ  
奪ハル、時

第三 共同資益ノ為メ財産所有ノ権ヲ奪  
ハル、時

第百十八條 納貢地ノ入額所得ノ権ヲ得タル  
者又ハ「アバギート」為シタル地ノ入額所得ノ  
権ヲ得タル者ハ道路溝渠ヲ造リ及ヒ其他公  
同資益ノ工業ヲ為スニ必要ナル土地ヲ償フ

得スレテ抛棄ス可シ但シ其入額所得ノ権ヲ  
設ケ定ムル證書ニ別段ノ契約ヲ記スル時ハ  
此例ニ非ス

第百十九條 前條ニ記シタル者ノ外總テ物権  
ヲ有スル者又ハ公正ノ證書ヲ有スル不動産  
ノ借主又ハ<sup>借主</sup>退去ノ期限ニ至ラサル前ニ強テ  
退去セシメラレタル不動産ノ借主ハ預メ至  
当ノ償ヲ得可シ

第百二十條 然レモ不動産ヲ人ニ譲リ渡ス可  
カラサル「<sup>レ</sup>」<sup>ト</sup>ンモルト<sup>ト</sup>ノ公舎ハ土地ヲ以テ



其償ヲ得可シ（又納貢地又ハ「アバチ」ノ入  
額所得者其地ノ四分ノ一以上ノ入額所得  
権ヲ失フタル時ハ土地ヲ以テ其償ヲ得可シ

第百二十一條

共同資益ノ為メ不動産所有  
権ヲ奪フ「ハ命令書ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ  
其命令書ニハ假リニ左ノ諸件ヲ定ム可シ

第一

主タル工業ト之カ為メ必要ナル附  
從ノ工業トヲ為スニ入用ナル土地ノ大

十

第二 都會ニ於テハ右土地ノ畫線外ニ在

トラセ

テ堅牢平安ナル家屋ヲ造ル可カラサル

一區ノ地但シ其地モ亦所有ノ権ヲ奪フ

七地ノ中ニ保會ス可キモノナリ

第百二十二條

右ノ命令書ハ裁判言渡書ヲ貼

附スル法式ヲ以テ其州ノ「レ」ユヰリ「レ」廳ト

裁判所ト所有ノ権ヲ奪フ可キ建物トニ之ヲ

貼附ス可シ但シ其貼附書ニハ所有ノ権ヲ奪

フ可キ不動産ノ圖面ヲ藏メタル場所ヲ記入

ス可シ

又右ノ命令書ハ新聞紙ニ記入シテ公ケニ為



ス可シ

第百二十三條 右図面ハ八日間其州ノ「」ニ  
リ「」廳ニ藏シ置キ且其間管係アル者、申  
立ヲ書留ム可キ調書ヲ作ル可シ

第百二十四條 右ノ申立ハ之ヲ調書ニ書留メ  
且規則ニ循テ其裁断ヲ為ス可シ

第百二十五條 所有ノ権ヲ奪フ可キ各區ノ土  
地ノ確定ノ圖面及ヒ行政局ヨリ出サントス  
ル償高ノ書付ハ行政局ヨリ之ヲ其知ル所ノ  
管係人又ハ願出シタル管係人ニ送ル可ク又

其圖面及ヒ書付前ニ記シタル法式ニ循ヒ之  
ヲ貼附ス可シ

第百二十六條 所有ノ権ヲ奪ハル可キ土地ノ  
所有者ハ八日內ニ入額所得者、借主及ヒ其他  
ノ管係人ヲ右行政局ニ告知ス可シ若シ其告  
知ヲ為ササル時ハ此等ノ者ニ為ス可キ償ヲ  
已レ一身ニ擔當ス可シ

第百二十七條 右貼附ヲ為シタル後ハ何時ニ  
限テ行政局ヨリ土地ノ借主ニ退去ノ旨ヲ命  
ズルヲ得可シ但シ貸借證書ニ別段ノ約束



アル時ハ例外ナリトス

第百二十八條 右退去ニ付キ土地ノ所有者ノ  
為ノ損失ヲ生スル時ハ官ヨリ渡ス所ノ償高  
中ニ其損失ノ償ヲ保會ス可シ

第百二十九條 若シ行政局ニテ最終ノ貼附ノ  
時ヨリ六月内ニ管係人ト協議シテ財産徴収  
評價人ヲ招集セシメサル時ハ管係人ヨリ其  
招集ヲ裁判所ニ求ムルヲ得可シ

第百三十條 所有ノ権ヲ奪フ可キ財産ニ付キ  
争ノ起ルヲアリト雖モ其所有ノ権ヲ奪フ手

續ヲ止ム可カラズ但シ裁判所ニテハ最モ先  
キニ訴出シタル者ノ求メニ回リ其財産ニ管  
係アリト述フル者ノ權利ヲ保護スル處置ヲ  
言渡スヲ得可シ

第百三十一條 管係人ハ財産徴収評價人ノ面  
前ニ出席ス可キ呼出シ状ヲ受取リタルヨリ  
八日内ニ出席ス可ク其居所ノ距離ノ為ニ別  
段猶豫ヲ許ルス可カラズ但シ其呼出状ノ費  
用ハ財産所有ノ権ヲ奪フ者即チ行政局ニ擔  
當ス可シ



第百三十二條 若シ管係人ノ出席セサル時ハ  
其權利ヲ取ルニタル上ニテ抗<sup>テ</sup>傳ノ俟確定ノ  
裁断ヲ為ス可シ

第百三十三條 管係人ハ償高ノ不当ナルヲ述  
フル為メ、外其裁断ノ取消ヲ訴出ス可カラ  
ス

第百三十四條 行政局ヨリ其徴収スル土地ノ  
真ノ所有者タルニ疑ヒナキヲ思料セシ者ニ  
其償ヲ與ハタル上ハ他ヨリ其處置ノ不当ナ  
ル旨ヲ訴出ス可カラス

第百三十五條 評價人ノ定タル價高ハ屋クト  
モ裁断ノ時ヨリ三月内ニ之ヲ渡ス可ク又何  
レノ場合ニ於テモ行政局ニテ土地ヲ徴収ス  
ル以前ニ其價高ヲ渡ス可シ

第百三十六條 徴収シタル區地ニ接隣セ  
シ土地ノ所有者ハ行政局ノ定ノタル價ヲ以  
テ其區地ヲ買入ル可キヤ否ヲ八日内ニ申出  
シ可キ旨ノ達ヲ受ケ若シ之ヲ買入レサルニ  
於テハ其所有者ヲ評價人ノ面前ニ呼出セシ  
上前ニ記シタル法式ニ循ヒ其所有ノ権ヲ奪



ヲ可シ

第百三十七條 都會内ニテ土地ヲ所有スル者  
其所育ノ權ヲ奪ハレ且其家屋建物モ亦破毀  
ス可キニ於テハ徵收シ殘シタル土地ヲ保ツ  
ニ及ハス

第百三十八條 毎歲裁判所ニ於テ一州毎ニ出  
地徵收評價人七十二名ヲ指定ハ可シ

第百三十九條 各會議ノ評價人ノ員數ハ裁判  
席ニテ闖引ニ為シタル者六名ニシテ其外ニ  
補助ノ評價人四名アル可シ但シ其補助ノ評

價人ハ正員ノ評價人缺席シテ其名代ヲ為ス  
時ニ非レハ投言ヲ為ス可カラズ

第百四十條 右ノ評價人ハ管係人ト同一ノ法  
式ヲ以テ之ヲ呼出シ裁判席ヲ闖クヨリ四十  
八時前ニ其姓名ヲ管係人ニ告知ス可シ

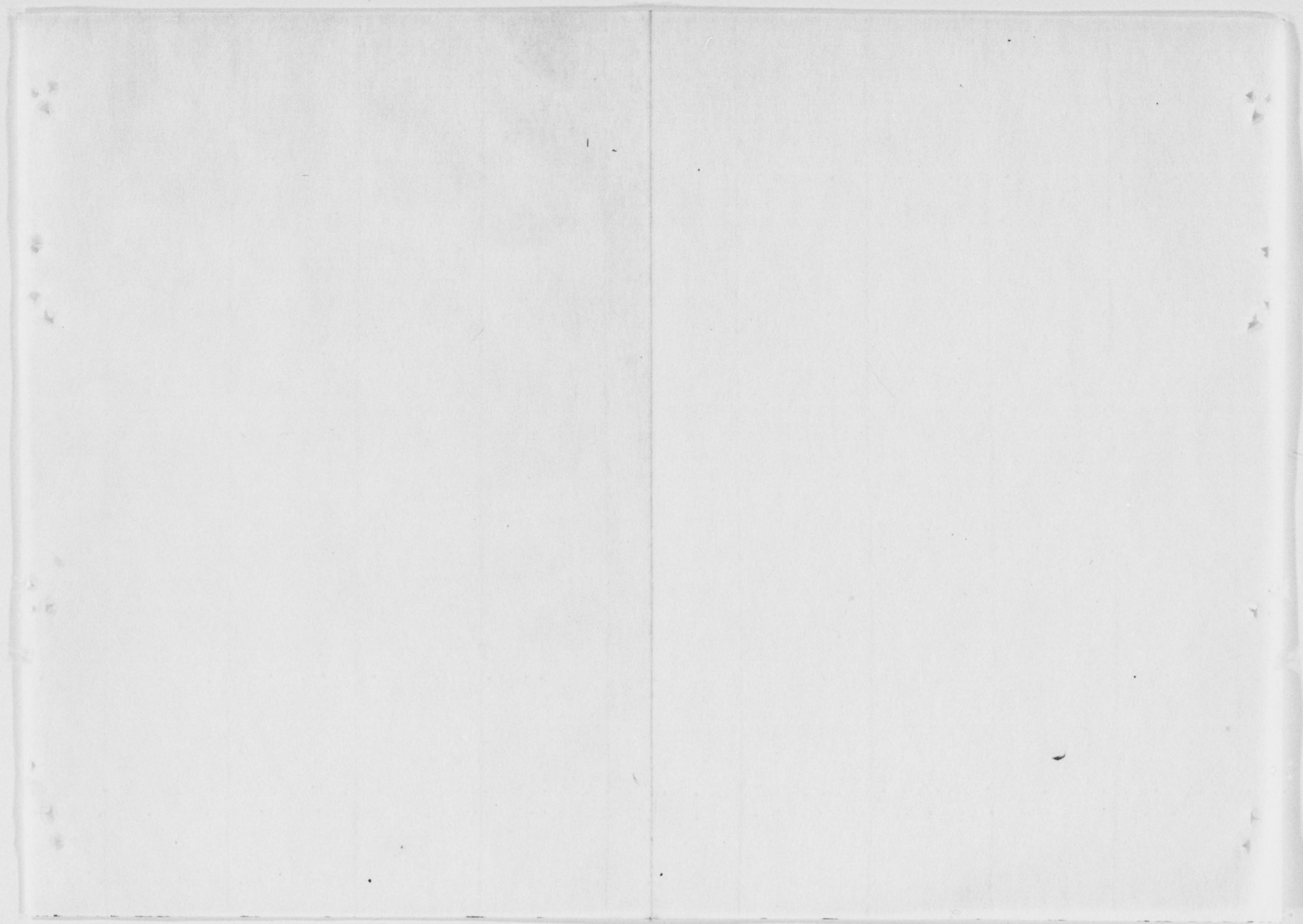
第百四十一條 裁判官一名其書記官ノ助ヲ得  
テ評價人ノ評價ニ從ヒ裁判ヲ言渡ス可シ  
第百四十二條 評價人ハ管係本人又ハ其名代  
人ノ申立ル所ヲ別段ノ手續ナク裁斷ス可シ

第百四十三條 其裁斷ハ抗擧者ヨリ故障ヲ申



立ッ可カラス又控訴ヲ為ス可カラス







司  
法  
部  
民  
法  
課

明七

臨時第九号ノ内

埃及法  
律書

民法草案

卷二

三十七葉半



第二篇 義務ノ事

第一章 総テ義務ノ事

第四百十四條 義務トハ法律上ニテ確定スル

務ヲ去ヒ其目的ハ義務ヲ負ヒシ者ヲシテ特ニ定メタル事ヲ為サシメ又ハ特ニ定メタル事ヲ為スヲ止メシメ以テ他人ノ為メ益ヲ得セシムルニ在リ

第四百十五條 物ヲ典フ可キ義務アル時ハ其義務ヲ負フタル者ニ属スル物ノ所有ノ權ヲ當然轉移ス可シ

第四百十六條 人ノ為メ物件ヲ設ケ為ス可キノ義務アル時ハ亦其物件ヲ轉移ス可シ但シ之レカ為メ一ノ債主他ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得ルノ權不動産書入質ノ權財産引留ノ權ヲ害ス可カラズ

第四百十七條 義務ノ中ニ契約ヨリ生スルモノアリ又ハ所為ヨリ生スルモノアリ  
第四百十八條 確實ニシテ法ニ適シタル原由アルニ非サレハ義務ナシトス

第四百十九條 義務ノ目的ハ人ノ為レ能フ可



ク且法ニ適セシ所為タル可ク若シ然ラサル  
時ハ義務ノ効ナカル可シ又物ヲ典フ可キ義  
務アル時ハ其物賣買ヲ為シ得可ク且其種類  
ハ必ス之ヲ定メ其品質モ亦模様ニ從ヒ之ヲ  
定メ得可キ物タル可シ

第百五十條 若シ二箇中ノ一ヲ擇ムヲ得可キ  
義務アル時ハ義務ヲ負フタル者之ヲ擇ム  
ヲ得可シ但シ法律又ハ契約上ニ別段ノ定メ  
アル時ハ格別ナリトス

第百五十一條 若シ義務ヲ行フ方法中ノ一箇  
ヲ為シ能ハサルニ至リシ時ハ其他ノ方法ヲ  
以テ義務ヲ行フ可シ

第百五十二條 若シ一箇ノ義務ヲ行ハサル時  
ハ其過代トシテ更ニ他ノ義務ヲ行フ可キ  
ヲ法律上ニ定メ又ハ契約上ニ定メタル時ハ  
義務ヲ行ハシム可キ者之ヲ行フ可キ者ヲシ  
テ主タル義務ヲ行ハシメ或ハ過代ノ義務ヲ  
行ハシムルヲ自由ナリトス然レモ義務ヲ行  
フ可キ者主タル義務ヲ相違ナク執行フ時ハ  
義務ヲ行ハシム可キ者之ニ代ハテ過代ノ義



務ヲ行ハシム可カラズ但シ主タル義務ヲ行  
フヲ遅延セシノミニ因リ過代ノ義務ヲ行ハ  
シム可キ言渡アル時ハ格別ナリトス

第百五十三條 若シ義務ヲ行ハシム可キ者前  
條ニ記シタル擇ミヲ為シ得可キ場合ニ於テ  
義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リ之ヲ行フ方  
法中ノ一箇ヲ為シ能ハサルニ至リシ時ハ義  
務ヲ行ハシム可キ者其他ノ為シ能フ可キ方  
法ヲ以テ其義務ヲ行ハシメ又ハ右一箇ノ方  
法ヲ為サシムル能ハサルヨリ生シタル損失

ノ償ヲ得ルヲ自由ナリトス

第百五十四條 若シ義務ヲ行フ可キ者ノ過失  
ニ因リ二箇ノ方法ヲ共ニ為シ能ハサルニ至  
リシ時ハ義務ヲ行ハシム可キ者甲ノ方法ヲ  
為サシムルヲ能ハサルニ付テノ損失ノ償ヲ  
得又ハ乙ノ方法ヲ為サシムルヲ能ハサルニ  
付テノ損失ノ償ヲ得ルヲ自由ナリトス

第百五十五條 若シ有期ノ義務ナル時ハ義務  
ヲ行フ可キ者其期ニ至ラサル前ニ義務ヲ行  
フヲ得可シ但シ法律ノ趣意又ハ契約ノ目



的之ニ反シタル時ハ格別ナリトス

第百五十六條 若シ義務ヲ行フ可キ者家資分  
散ヲ為シ又ハ已レノ所為ニ因リ義務ヲ行フ  
ニ付テノ保証ヲ減損シタル時ハ有期ノ義務  
ト雖モ直チニ之ヲ行ハサルヲ得ス

第百五十七條 義務中ニ将来ノ事件又ハ未必  
ノ事件ニ管スル者モノアリ或ハ其事件ニ因  
テ義務ヲ生シ或ハ義務ヲ確定シ或ハ義務ノ  
生スルヲ防キ或ハ義務ヲ消散セシム

第百五十八條 未必ノ事件ノ生スル時義務ヲ  
解除ス可キ約束アル場合ニ於テ其事件ノ確  
定トナル時ハ義務ノ効ヲ失ヒ又ハ義務ヲ取  
消ス可シ又未必ノ事件ノ生スルニ至ル迄義務  
ノ執行ヲ停止ス可キ約束アル場合ニ於テ其  
事件ノ確定トナル時ハ初ヨリ其約束ヲ為サ  
ザルト同視ス可シ

第百五十九條 未必ノ事件ノ現ニ生シタル時  
ハ義務ト其義務ヨリ生スル權利トヲ嘗テ其事  
件ヲ預料セシ時ヨリ存在シタル者ト看做シ  
又ハ其時ヨリ効ヲキモノト看做ス可シ



第百六十條 義務ヲ生セシム可キ事件ノ現ニ  
生スル前ニ其義務ヲ執行フ能ハルルニ至リ  
シ時ハ其事件ノ現ニ生スルヲアリト雖モ其  
効ヲカル可シ

第百六十一條 義務ヲ生セシムル契約ニ因リ  
其義務ヲ行ハシム可キ者教人物ヲ受取ル為  
ノ互相ノ名代ノ推ヲ互ニ授附スル時ハ其教  
人<sup>ヲ</sup>連帶シテ義務ヲ行ハシム可キモトス但  
シ此場合ニ於テハ名代ノ規則<sup>ニ</sup>循フ可シ

第百六十二條 義務ヲ行フ可キ者<sup>者</sup>教人連帶シタ  
ルヲ契約ニ定メ又ハ法律上ニ定メタル時  
ノ外ハ其義務ヲ行フ可キ各人其義務ノ全部  
ヲ已レニ擔當スルニ及ハス

第百六十三條 若シ契約又ハ法律上ニ義務ヲ  
行フ可キ者教人ノ連帶シタルヲ定メタル  
時ハ其數人ヲ互相ノ保証人ナリト看做シ且  
物ヲ渡ス為メ互相ノ名代人ナリト看做ス可  
シ

第百六十四條 前條ノ場合ニ於テハ保証ノ契約  
及ヒ名代ノ契約ノ規則ヲ通シ用フ可シ



第百六十五條 義務ヲ行ハシム可キ者ハ連帶

シテ義務ヲ行フ可キ者數人ヲ同時ニ訴ヘ又

ハ各自ニ訴フルト自由ナリトス但シ其數人

中ニ有期ノ義務ヲ負フタル者又ハ別段ノ約

束ヲ為シタル者アル時ハ格別ナリトス

第百六十六條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人

中ノ一人ニ對シテ義務ヲ行フ可キノ催促ヲ為

シ且之ヲ訴フル時ハ其他ノ連帶シタル者ニ

對シテ其催促及ヒ訴ノ効アリトス

第百六十七條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人

中ノ一人ハ已レノ所為ニ因リ他ノ者ノ義務

ヲ重劇ナラシム可カラス

第百六十八條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ各人

ハ已レ一身ノ固有ノ權利ト他ノ者ト共通シ

テ有スル權利トヲ申立テ原告ノ訴ニ抗拒ス

ルヲ得可シ

第百六十九條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人

中ノ一人其義務ヲ相殺スルヲ得タルト雖モ

連帶セシ他ノ者其旨ヲ申立テ原告ノ訴ニ抗

拒ス可カラス○又其數人中ノ一人其義務ヲ



權利ト混同スルヲ得タリト雖モ連帶セシ他  
ノ者ハ其一人ノ擔當スル義務ノ部分ヲ減セ  
シト申立ルヲ得キノミトス

第七十條 又連帶シテ義務ヲ行フ可キ数人  
中ノ一人其義務ノ釋放ヲ得タルト雖モ連帶  
シタル他ノ者ハ其一人ノ擔當スル義務ノ部  
分ノ釋放ヲ申立ルヲ得キノミトス但シ義  
務ノ全部ノ釋放ヲ得タル旨ヲ申立ルニハ其  
証アルヲ必要トス

第七十一條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ数人  
中ノ一人自カラ其義務ヲ尽クレ又ハ其義務  
ヲ權利ト渾同シタル時ハ連帶シタル他ノ数  
人ニ對シ各其擔當ス可キ部分ヲ已レニ償ハ  
シハ可キヲ訴ヲ為スヲ得可シ 若シ其数  
人中ニ其償ヲ為スヲ能ハサル者アル時ハ其  
者ノ部分ヲ平等ニ他ノ者ニ割附ク可シ  
第七十二條 若シ事柄ノ種類ニ因リ又ハ義  
務ノ目的ニ因リ数人ニテ其義務ヲ分チ行フ  
ヲ能ハサル時ハ連帶シタル各人其義務ノ全  
部ヲ擔當ス可シ但シ其全部ヲ自カラ盡クシ



タル者ハ他ノ者ハ對シ其償ヲ得可キノ訴ヲ  
為スルヲ得可シ

第七十三條 若シ義務ヲ行フ可キ者其義務  
ノ一部ヲ行フヲ肯セサル時ハ義務ヲ行ハ  
シム可キ者損失ノ償ヲ得テ契約ノ取消ヲ要  
ス又ハ其行ハサル義務ノ一部ニ付テノ損失  
ノ償ヲ要スルヲ自由ナリトス

第七十四條 然レモ義務ヲ行ハレハ可キ者  
ハ其時ノ模様ニ因リ義務ヲ行フ可キ者ノ費  
用ヲ以テ其者ノ擔當セシ事ヲ行フ可キ裁判

所ノ允許ヲ得又ハ契約ニ背キ作りシ物ヲ毀  
ツ可キ裁判所ノ允許ヲ得可シ

第七十五條 特ニ定メタル物件ヲ渡ス可キ  
義務アリテ其契約ヲ為シタル時又ハ其契約  
ヲ為シタル後其義務ヲ行フ可キ者右ノ物件  
ヲ所有シ且ツ其物件ニ付キ別ニ物權ヲ得タ  
ル者アラサル時ハ縱令義務ヲ行フ可キ者其  
物權ヲ渡スルヲ肯セスト雖モ義務ヲ行ハシ  
ム可キ者裁判所ノ允許ヲ以テ其物件ヲ已レ  
ル有ト為スルヲ得可シ



第七十六條 不動産所有ノ権ヲ移ス契約ヲ  
取消スト虽モ書入質ノ権ヲ官署ノ簿冊ニ記  
入セシメタル債主ノ権利ヲ害ム可カラズ  
第七十七條 義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因  
リ其義務ノ全部又ハ一部ヲ行フコトナク又ハ  
之ヲ行フコトヲ遅延シタル時ノ外ハ其者ラシ  
テ損失ノ償ヲ為セシム可カス  
第七十八條 又義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ  
之ヲ行フ可キ者ニ其催促ヲ為シタル上ニ非  
サレハ損失ノ償ヲ為セシム可カラズ

第七十九條 其損失ノ償高ハ義務ヲ行ハシ  
ム可キ者ノ受ケタル損失ヲタル益トテ合  
算セシ高タル可シ但右損失ハ義務ヲ行ハサ  
ルヨリ直ニ生ビレ所ノモノニ限ル可シ  
第八十條 又義務ヲ行フ可キ者ニ詐偽アラ  
ハル時ハ其損失ノ償高ヲ初メ契約ヲ結ビシ  
時當然預料シ得タル所ノモノニ限ル可シ  
第八十一條 契約又ハ法律上ニ於テ義務ヲ  
行ハサルニ付テノ損失償ノ高ヲ定メタル時  
ハ裁判後其高ヲ増減ス可カラズ



第百八十二條 若シ金高ヲ渡ス可キ義務ヲ行ハサル時ハ之ヲ裁判所ニ訴出セシ日ヨリ其利息ヲ拂フ可シ但シ契約又ハ商業上ノ習慣又ハ法律上ニ別段ノ定メアル時ハ此例ニ非ス

第百八十三條 其利息ノ高ハ民法上ノ事ニ付テハ裁判役金銀ノ相場ニ從ヒ之ヲ定ム可シ但シ其利息高ハ百分ノ十二ニ過ク可カラズ  
第百八十四條 商法上ノ事ニ付テハ其利息高ヲ常ニ百分ノ十二ト為ス可シ

第百八十五條 契約ニ定ムル利息高ハ百分ノ十二ニ過ク可カラズ

第百八十六條 一年ニ足ラサル時間ノ利息ニ付テハ更ニ其利息ノ利息ヲ得可カラズ又之ヲ得ント訴フ可カラズ

第百八十七條 然レモ商業取引ノ利息高ハ各地ノ相場ニ從テ變更スルコトヲ得可ク又其取引ニ於テ利息高ヲ元金ト為シ更ニ其利息ヲ得ルコトハ商業ノ習慣ニ從テ之ヲ為ス可シ

第二章 契約ヨリ生スル義務



第百八十八條 義務ヲ負フ可キ者ニ契約ヲ為シ得ルノ權アリテ且其者適理ノ承諾ヲ為シタルニ非サレハ契約ヨリシテ義務ヲ生スルコトナカル可シ

第百八十九條 契約ヲ為シ得ルノ權ハ特ニ定メタル契約ノ種類ニ限ルモノアリ又ハ種類ノ如何ナルヲ問ハス總テノ契約ニ管スルモノアリ

第百九十條 特ニ種類ヲ定メタル契約ヲ為シ得ルノ權ト諸般ノ契約ヲ為シ得ルノ權トハ

其契約ヲ為ス人ノ本國ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス可シ

第百九十一條 若シ契約ヲ為ス者ニ其契約ヲ為シ得可キノ權アラサル時ハ縱令其契約ノ為シ其者ニ損害ノ生スルコト雖モ其契約ノ効ナカル可シ 契約ヲ為シ得可キノ權アラサル者其契約ヲ為シタルニ付キ之ヲ取消シタル時ハ其權アル一方ノ者其契約ノ如ク執行ヲタルニ曰リ其權ナキ者ノ已レニ得タル利益ノミ其權アル者ニ笑還ス可シ



第九十二條 契約ヲ為シ得可キ権アル者ハ其権ヲキ一方ノ者ニ對シ其契約ノ効ナキ旨ヲ申立テ其者ヲ訴ニ抗拒ス可カラズ

第九十三條 錯誤ニテ承諾ヲ為シ又ハ暴行詭欺ニ因リ承諾ヲ為サレタル時ハ其承諾ノ効ナカル可シ

第九十四條 契約ヲ為スニ付テノ要領ヲ錯誤シ承諾ヲ為シタル時ハ其承諾ノ効ナカル可シ

第九十五條 又暴行ヲ以テ承諾取消ノ原目

ト為スニハ精神ノ靜定セシ人ヲシテ其心ヲ惑動セシノ畏懼ノ念ヲ生セシム可キ暴動ノ時ニ限ル可シ但シ此事ニ付テハ其者ノ年齢男女模様等ニ注意ス可シ

第九十六條 甲者ヨリ乙者ニ對シ詭欺ヲ為シタルニ非ナレハ乙者苟モ初メヨリ契約ヲ為スヲ承諾セサル可キト明白ナル時ハ其詭欺ヲ以テ承諾ヲ取消スノ原目ト為ス可シ

第九十七條 疾病酩酊又ハ其他ノ偶然ノ模様ハ裁判所ニ於テ承諾ヲ取消ス原目ナリト



看做ス丁ヲ得可シ

第百九十八條 當然ノ承諾ヲ為サ、ル旨ヲ證

得タル者ハ其契約ヲ執行ヒ又ハ其取消ヲ

訴フルト自由ナリトス

第百九十九條 不動産所有ノ権ヲ移ス契約ヲ

取消スト虽モ書入質ノ権ヲ官署ノ簿冊ニ記

入セシメタル債主ノ権利ヲ害ス可カラズ但

シ其債主ノ正実ナル時ニ限ル可シ

第二百條 若シ甲者乙者ヨリ名代ノ証書ヲ得

ルトヤク乙者ノ為メ丙者ト契約ヲ為シタル

時ハ乙者其契約ヲ確定シ又ハ之ヲ許認スル

ヲ肯セサルト自由ナリトス

第二百一條 凡ソ契約書ハ其文詞ノ直義如何

ヲ問ハス双方ノ定メタル目的ナリト思料シ

得可キ所ト其契約ノ種類及ヒ習慣トニ從テ

之ヲ解釋ス可シ

第二百二條 義務ヲ保持シ又ハ之ヲ確定ス可

キト否トヲ定ムル未必ノ條件ニ管レタル約

束ノ義意ヲ解釋スル方法モ尔前條ト同シカ

ル可シ



第二百三條 若シ契約ノ文意ニ疑アル時ハ義務ヲ行フ可キ者ノ為ノ益トナル可キ様之ヲ解釋ス可シ

第二百四條 契約ハ之ヲ結ビシ雙方ノ外更ニ他人ノ益トナル可カラズ然レモ契約ヲ為シタル者ノ債主ハ其負債者諸財産ヲ以テ負債ノ償ニ充テ用フ可キ権アルニ因リ其負債者ニ代リテ右契約又ハ其他ノ原由ヨリ生スル權利ヲ行フヲ得可シ但シ其負債者一身ノ固有ノ權利ハ格別ナリトス

第二百五條 契約ハ之ニ管係ナキ者ノ為ノ害ヲ為ス可カラズ又其契約ノ日附確的ナル時ニ非サレハ其契約ヲ申立テ之ニ管係ナキ者ノ訴ニ抗拒ス可カラズ

第二百六條 義務ヲ行ハシム可キ者ハ之ヲ行フ可キ者ノ已レノ權利ヲ害スルタメ為シタル契約ヲ取消サレムルノ権アリ又義務ヲ行ハシム可キ者ハ之ヲ行フ可キ者ノ已レノ權利ヲ害スルタメ人ヨリ贈遺ヲ受クルヲ承諾シ又ハ其贈遺ヲ拋棄スルヲ承諾シタル時ハ



其承諾ヲ取消サレムルノ推アリ

### 第三章 所為ヨリ生スル義務

第二百七條 甲者其意ヲ以テ乙者ニ利益ヲ得

セシメタル時ハ乙者其已レニ得タル利益ノ

高ニ充ル迄甲者ノ為シタル費用ト其受ケタ

ル損失トヲ償フ可シ

第二百八條 已レニ属セサル物件ヲ受取りタ

ル者ハ之ヲ還サ、ル可カラズ

第二百九條 若シ其者不正ノ意ヲ以テ已レニ

属セサル物件ヲ受取りタル時ハ其物件ヲ失

ヒタルノ責ニ任シ且其物件ヨリ生シタル利

益ヲ償還ス可シ

第二百十條 然レモ法律上ニ定メタルト否ト

ヲ問ハス一箇ノ義務ニ因テ物件ヲ渡シタル

時ハ其受取人ノ之ヲ還スニ及ハス

第二百十一條 若シ甲者錯誤シテ乙者ノ義務

ヲ負カ、テ丙者ニ尽クシ、丙者正當ノ意ヲ以テ

其物件ヲ受取り其証書ノ滅盡シタル時ハ丙者

ヨリ之ヲ還スニ及ハス但シ甲者ハ乙者ニ對

シ其償ヲ得ント要ムルヲ得可シ



第二百十二條 前ニ記シタル模様ニ於テ所為ヨリ生スル義務ハ連帶シタルモノト為ス可カラス

第二百十三條 後ノ數條ニ記列スル模様ニ於テ生シタル義務ハ連帶シタルモノト為ス可シ

第二百十四條 法律上ニテ罰スル總テノ犯罪人ハ其犯罪ヨリ生スル損害ヲ償フ可シ但シ犯罪人其年齡ニ因リ又ハ其他ノ原由ニ因リ已レノ為シタル所行ヲ本心ニ知ラサル時ハ格

別ナリトス

第二百十五條 又甲者其管守ス可キ乙者ヲ監スルニ怠リ又ハ乙者ノ過失懈惰疎忽ニ因リ丙者ノ為ノ損害ヲ生スル時ハ甲者其損害ヲ償フ可シ

第二百十六條 又僕婢其主長ヨリ命セラレタル職務ヲ行フニ當リ人ニ損害ヲ加ヘタル時ハ主長其損害ヲ償フ可シ

第二百十七條 又獸類ノ所有者其管守スル獸類ノ人ニ損害ヲ加ヘ又ハ其獸類ノ逃逸シテ



人ニ損害ヲ加ヘタル時ハ其損害ヲ償フ可シ

第二百十八條 已レノ家産又ハ已レノ健康ヲ害ス

ルノ恐レヲク人ノ損害ヲ防キ得可キニ其損害ヲ防クヲ肯セス或ハ防クニ怠リ又ハ之ヲ防グノ方便ヲ授クルヲ肯セス或ハ怠リクル者ハ其損害ノ責ニ任ス可シ

第四章 法律上ヨリ生スル義務

第二百十九條 別段法律上ニ定メタル所ノミ

ヨリ生スル義務ハ連帯ロシモノト為ス可カラズ但シ連帯ノ事ヲ別段法律上ニ定メタル

時ハ格別ナリトス

第二百二十條 血屬ノ卑屬ノ親ハ其尊屬ノ親

ニ養料ヲ給ス可リ又姻屬ノ卑屬ノ親モ結縁ノ間ハ其尊屬ノ親ニ養料ヲ給ス可シ

第二百二十一條 又尊屬ノ親ノ卑屬ノ親ニ於

ケル及ヒ夫婦互相ノ間ニ於ケル亦前條ニ同シ

第二百二十二條 養料ハ之ヲ給スル者ノ家産

ト之ヲ得ル者ノ要スル所トニ准シ其高ヲ定メ可シ



第二百二十三條 養料ハ必ス毎月前渡ニ為ス

可シ

第五章 義務ノ消散スル事

第二百二十四條 義務ハ左ノ諸件ニ因テ消散

ス可シ

義務ヲ行フ事

義務ヲ解除スル事

義務ヲ釋放スル事

義務ノ更改スル事

二箇ノ義務互ニ相殺スル事

權利ト義務ト渾同スル事

期滿免除ノ權「アレスクリ  
アシヨシ

第一款 義務ヲ行フ事

第二百五五條 若シ義務ノ種類ニ因リ其義

務ヲ行ハレハル者之ヲ行フ可キ本人ヲレテ

能カラ之ヲ行ハレハルヲ欲スル旨ヲ知り得

可キ時ハ其本人自カラ之ヲ行フ可シ

第二百二十六條 若シ義務ヲ行フ為ノ物件ヲ

渡ス可キ時ハ縱令義務ヲ行ハレハル者又ハ

之ヲ行フ可キ者ノ意ニ出テスト虽モ他人ヨ



リ其物件ヲ渡スヲ得可シ

第二百二十七條 甲者義務ヲ行フ可キ乙者ニ  
代テ義務ヲ行ハシム可キ丙者ニ物件ヲ渡シ  
タル時ハ甲者ヨリ乙者ニ對シ已レノ渡シタ  
ル物件ノ高ニ充ル迄ノ高ヲ償還セシムルノ  
訴ヲ為スヲ得可シ

第二百二十八條 前條ノ甲者ハ左ニ記列スル  
場合ニ於テハ已レノ新タニ得タル權利ヲ保証  
スル為ノ以前ノ權利ト同シキ保証ヲ得可シ

第一 丙者甲者ヨリ物件ヲ受取りタル時

公正ノ証書ヲ以テ以前ノ保証ヲ甲者ニ  
移スヲ承諾シタル時

第二 甲者乙者ト共ニ義務ヲ負ヒ又ハ乙  
者ノ為ノ義務ヲ負フタル時

第三 甲者已レニ優リタル債主先取りノ權  
又ハ不動産書入質ノ權ヲ有スル丙者ニ  
物件ヲ渡シタル時又ハ甲者不動産ヲ買  
入レ其代金ヲ右不動産ニ付テ書入質ノ  
權ヲ有スル丙者ニ渡シタル時

第四 法律上ニテ甲者ヲレテ丙者ノ權ニ



代ラシム可キヲ持ニ定メタル時

第二百二十九條 若シ甲者義務ヲ行フ可キ乙者ノ意ニ非スシテ丙者ニ物件ヲ渡シタレ時乙者右物件ヲ渡スニ及ハセル權アルノ証ヲ立ルニ於テハ甲者ノ償還ヲ要ムル訴ノ全部又ハ一部ニ抗拒スルノ權アリ

第二百三十條 又義務ヲ行フ可キ乙者ハ義務ヲ行ハシム可キ丙者ノ承諾ヲ得スト雖モ丙者ニ渡ス可キ物件ヲ已レニ給與セシ甲者ニ以前ト同シキ保証ヲ移ストヲ得可令但シ之レ

カ為タニハ右物件ノ給與ト其用方トヲ公正ノ証書ヲ以テ証スル丁ヲ必要トス

第二百三十一條 法ニ適シテ物件ヲ渡ス為メニハ義務ヲ行フ可キ者ニ其物件所有ノ權ヲ人ニ移ス可キ權アリテ且義務ヲ行ハシム可キ者ニ之ヲ受取ル可キ權アル丁ヲ必要トス

第二百三十二條 然レモ物件所有ノ權ヲ人ニ移ス可キ權ナキ者ヨリ義務ヲ行ハシム可キ者ニ物件ヲ渡シ其權ナキ者ノ為メ損害アラサレ時ハ其義務消散ス可シ



第二百三十三條 義務ハ之ヲ行ハシム可キ者  
又ハ其特別ノ名代人又ハ其者ヨリ權利ヲ讓  
リ受ケタル者、為メ之ヲ行フ可シ

第二百三十四條 義務ヲ行フ方法ハ双方ノ預  
定シタル如クナル可ク又義務ハ約定シタル  
時ト地トニ於テ之ヲ行フ可シ又義務ハ其一  
部ノミヲ行フ可カラズ但シ特別ナル場合ニ  
於テ義務ヲ行ハシム可キ者ノ為メ至重ノ損  
害アラサル時ハ裁判役義務ヲ行フニ付テノ  
期限ヲ定メ又ハ相當ノ猶豫ヲ許ルストテ得

可シ

第二百三十五條 特ニ指定シタル物件ヲ渡ス  
可キ地ハ其物件所在ノ地タル可シ但シ之ニ  
反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第二百三十六條 又貨幣或ハ種類ノミヲ指定  
シタル物件ニ付テハ義務ヲ行フ可キ者ノ住  
所ニ於テ之ヲ渡ストテ契約シタルト看做ス  
可シ

第二百三十七條 義務ヲ行フ費用ハ之ヲ行フ  
可キ者擔當ス可シ



第二百三十八條 數箇ノ義務アリテ其義務ヲ

行フ可キ者ヨリ物件ヲ渡シタル時ハ其物件

ヲ其者ノ特ニ定メタル義務ヲ行フニ充テ用

フ可シ又其者特ニ之ヲ定メタル時ハ其者ノ

最モ速クニ盡クストノ必要ナル義務ヲ行フ

ニ充テ用フ可シ

第二百三十九條 義務ヲ行フ可キ者ヨリ物件

ヲ渡シタル時ハ先ツ義務ノ費用利息年金ヲ

償フニ充テ用ヒ然ル後ニ主タル義務ヲ行フ

ニ充テ用フ可シ

第二百四十條 事ヲ為ス可キノ義務アル者ハ

之ヲ為ラント提供スルニテ當然其義務

ヲ免ル可カラズ然レモ其提供ヲ為シタル時

義務ヲ行ハシム可キ者之ヲ承諾セサルニ因

リ義務ヲ行フ可キ者ノ為ニ損害ヲ生シタ

ルニ於テハ義務ヲ行ハシム可キ者ニ對シ損

害ノ償ヲ要ムルヲ得可シ

第二百四十一條 然レモ動産ヲ渡ス可キ義務ヲ

行フ可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ者訴訟法ノ

規則ニ從ヒ提供ヲ為スニ因リ其義務ヲ免ル



ルヲ得可シ

第二百四十二條 又不動産ヲ渡ス可キ義務ヲ行フ可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ者之ヲ行ハシム可キ者ヲ裁判所ニ呼出シ其出席ノ有無ヲ問ハス裁判所ヨリ其不動産ノ附託ヲ受ク可キ者ヲ任スル言渡ヲ得タルニ因リ其義務ヲ免ル可シ

第二款 義務ヲ解除スル事

第二百四十三條 義務ノ生レタル後之ヲ行フ不能ハサルニ至リシ時ハ其義務ヲ解除シテ

之ヲ消散セシム可シ

第二百四十四條 若シ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リ之ヲ行フ不能ハサルニ至リシ時又ハ其者之ヲ行フ可キノ催促ヲ受ケタル後之ヲ行フ不能ハサルニ至リシ時ハ其義務ヲ行フ可キ者損失ノ償ヲ擔當ス可シ

第二百四十五條 義務ヲ行フ不能ハサルニ至リシニ因リ其義務ヲ解除シタル時ハ其義務ト相對シタル義務ヲモ亦解除ス可シ但シ正當ノ原因ナクシテ得タル利益アル時ハ互ニ



償還ヲ為ス可ク且正實ニ不動産書入質ノ權  
ヲ得タル債主ノ權利ヲ害ス可カラズ

第三款 義務ヲ釋放スル事

第二百四十六條 人ニ贈遺ヲ為ス可キノ權  
ル者ヨリ自己ノ意ヲ以テ義務ヲ釋放シタル  
時ハ其義務消散ス可シ

第二百四十七條 義務ヲ行フ可キ者其義務ノ  
釋放ヲ得タル時ハ保証人モ亦其義務ノ釋放  
ヲ受ル可キ

第二百四十八條 連帯シテ義務ヲ行フ可キ數

人中ノ一人其義務ノ釋放ヲ得タル時ハ其一  
人ノ部分ノミニ付テ其釋放ヲ為レタルモ、  
ト看做シ其部分ノミヲ消散セシム可シ

第二百四十九條 連帯シテ義務ヲ行フ可キ數  
人中ニテ已レノ部分ノ釋放ヲ得タル者ハ後ニ其  
數人中ニ義務ヲ行フ能ハサル者アル時ニ  
至リ其者ノ部分ヲ他ノ數人ニ分配スル為メ  
ノ外既ニ釋放ヲ得タル者ニ對シ訴ヲ為ス可  
カラス

第二百五十條 保証人ヲ釋放シタル時ハ其保



証ノ義務ノミヲ釋放シタルモノト看做ス可

第二百五十一條 釋放ヲ得タル保証人ノ嘗テ

其保証ノ義務ヲ承諾セシメ若シ他ノ保証人

ノ保証ノ義務ヲ承諾シタルヨリ以前ナル時

ハ他ノ保証人ヨリ其釋放ヲ得タル保証人ニ

對シテ訴ヲ為スヲ得可シ

第四款 義務ノ更改スル事

第二百五十二條 義務ノ更改シタル時ハ従来

ノ義務消散シ且口儀ニ新ナル義務ヲ生ス

第二百五十三條 義務ノ更改ハ契約ヨリ生ス

第二百五十四條 斥ノ場合ニ於テハ義務更改

ス可シ

第一 義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ行ハシム

可キ者ト悞謾シテ従来ノ義務ヲ消散セ

シソ之ニ代ヘテ更ニ新ナル義務ヲ生セ

シソシ時又ハ従来ノ義務ノ原因ヲ變更

セシ時

第二 義務ヲ行フ可キ甲者ノ承諾ノ有無

ヲ問ハス義務ヲ行ハシム可キ乙者ト管



係ナキ丙者ト協議シテ其甲者ヲ釋放シ  
丙者之ニ代テ義務ヲ行フ可キ者トナリ  
シ時又ハ甲者丙者ヲシテ已レニ代テ義務  
ヲ行ハレム可キト乙者ニ承諾セシメ  
タル時

第三 右ノ甲者ト乙者ト協議シテ従来ノ  
義務ヲ取消シ甲者丙者ノ承諾ヲ得タル  
上其丙者ノ利益ノ為メ更ニ他ノ義務ヲ  
行フ可キト定メタル時

第二百五十五條 新ニ生レタル義務ヲ行ハシ

ムルニ付テハ従来ノ義務ヲ行ハレムルニ付  
テノ保証ヲ移ス可カラズ但レ契約又ハ模様  
ニ因リ双方ノ者ニ別段ノ意見アルト知ル  
可キ時ハ格別ナリトス

第二百五十六條 然レモ契約ハ左リ効ノミヲ生  
ス可シ

第二百五十四條ノ第一ノ場合ニ於テハ義務  
ヲ行フ可キ者ト之ヲ行ハレム可キ者ト協議  
シテ債主ノ他ノ債主ヨリ先キ取リノ權不動産  
書入質ノ權財産引留ノ權等ノ如キ従来ノ義



務ニ付テ、物ニ管スル保証ガラシ、レエルヲ新テ  
ル義務ニ移スヲ得可シ但シ之レカ為リ其  
義務ニ管係ナキ者ノ権利ヲ害ス可カラズ  
同條第二ノ場合ニ於テハ義務ヲ行フ可キ甲  
者ノ承諾、有無ヲ問ハズ義務ヲ行ハシム可  
キ乙者ト管係ナキ丙者ト換議シテ従来ノ義  
務ニ付テ、物ニ管スル保証ヲ新ナル義務ニ  
移スヲ得可シ  
又同條ノ第三ノ場合ニ於テハ契約ヲ為ス三  
名同上ノ換議ヲ為スヲ得可シ

第二百五十七條 右三箇中何レノ場合ニ於テモ  
連帯シテ義務ヲ行フ可キ者及ビ保証人ノ承  
諾アルニ非サレハ保証ノ義務及ビ連帯ノ義  
務等ノ如キ人ニ管スル保証ガラシニテモ  
移ス可カラズ

第二百五十八條 前條ニ記スル保証ヲ移ス契  
約ハ義務ノ更改スルト同時ニ之ヲ公正ノ証  
書ニ記スルニ非サレハ管係ナキ者ニ對シ其  
効ナカル可シ

第五款 二箇ノ義務互ニ相殺スル



事

第二百五十九條 二箇ノ義務互ニ相殺スルハ  
義務ヲ盡クスノ一種ニシテ義務ヲ行フ可キ  
者義務ヲ行ハシム可キ者トナリ義務ヲ行ハ  
シム可キ者義務ヲ行フ可キ者トナル時ハ縱  
令双方ノ者識認スルナラシト雖モ二箇ノ義  
務當然互ニ相殺ス可シ

第二百六十條 二箇ノ義務中ニテ高ノ寡ナキ  
義務ノ高ニ充ル迄互ニ相殺ス可シ

第二百六十一條 二箇ノ義務ノ高互ニ確定シ

且既ニ之ヲ行フ可キ期限ニ至リ且其義務ハ  
共ニ金高又ハ種類品位ノ相同シキ同質ノ品  
物ニ管シ並ニ同一ノ地ニテ之ヲ行フ可キモ  
ノニ非ナレハ互ニ相殺ス可カラズ

第二百六十二條 義務中ノ一箇ヲ差押ノ可カ  
ラサル時又ハ金高或ハ品物ノ附託ニ據リ其  
義務中ノ一箇ノ生レタル時ハ二箇ノ義務ヲ  
互ニ相殺ス可カラズ

第二百六十三條 二箇ノ義務互ニ相殺スル場  
合ニ於テ數箇ノ義務中ノ一ヲ尽クスニ充テ



用フル丁ハ通常義務ヲ尽クス時ト同一タル  
可シ

第二百六十四條 若シ義務ヲ行ハシム可キ甲  
者已レノ權利ヲ丙者ニ譲リ渡シ義務ヲ行フ可  
キ乙者其譲リ渡ヲ承諾シタル時ハ乙者二箇  
ノ義務ノ互ニ相殺スルヲ述ハテ丙者ノ推  
ヲ害ス可カラズ但甲者ニ對シテ其償ヲ要ム  
ルヲ得可シ

第二百六十五條 若シ義務ヲ行フ可キ者二箇  
ノ義務互ニ相殺ス可キヲ述フルヲナリ其  
義務ヲ行フタル時ハ保証人連帯シテ義務ヲ  
行フ可キ者其義務ヲ行フタル為メ已レノ權利  
ヲ害セラレシ先取りノ権アル債主其義務ヲ  
保証セシ質物ノ所有者ヨリ二箇ノ義務互ニ  
相殺スルヲ述フルヲ得可シ但シ義務ヲ行  
フタル者其義務ヲ行ヒシ時之ヲ相殺セシム  
可キ權利ノ已レニ存スルヲ知ラサルノ証ア  
ル時ハ格別ナリトス

第二百六十六條 義務ヲ行フ可キ甲者義務ヲ  
行ハシム可キ乙者ニ義務ヲ尽クス可カラサ



ル、差留ヲ、他人ヨリ受ケ又ハ乙者ヨリ己レノ  
権利ヲ他人ニ移ルタルノ告知ヲ受ケタル時  
ハ其差留又ハ告知ヨリ後ニ生レタル権利ヲ  
以テ二箇ノ義務ヲ互ニ相殺ス可カラス

第二百六十七條 義務ヲ行フ可キ者ハ之ヲ行  
ハシム可キ者ヨリ其義務ノ保証人ニ對シ尽  
クス可キ義務アルヲ以テ二箇ノ義務ヲ互ニ  
相殺ス可カラス

第二百六十八條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數  
人ハ之ヲ行ハシム可キ者ヨリ其數人中ノ一

人ニ對シ尽リス可キノ義務アルヲ以テ二箇  
ノ義務ヲ互ニ相殺ス可カラス但シ其一人ノ  
部分ノミハ格別ナリトス

第六款 權利ト義務ト渾同スル事

第二百六十九條 一人ニテ義務ヲ行ノ可キ者  
ト之ヲ行ハシム可キ者トノ身分ヲ兼有スル  
時ハ權利ト義務ト渾同ス可シ

第二百七十條 權利ト義務ト渾同スル時ハ保  
証人ノ義務ヲ釋放ス可シ然レニ連帶シテ義務  
ヲ行フ可キ數人ニ付テハ權利ト義務トヲ兼



有ロシ其中ノ一人ノ部分ヲ除ク、外其義務ヲ釋放ス可カラズ

第七款 期滿免除ノ權

第二百七十一條

法律上ニ定メタル期限ヲ經テ期滿免除ノ權ヲ得タル時ハ義務ヲ消散セシメ義務ヲ行フ可キ者ヨリ其旨ヲ申立ル時ハ全ク其義務ヲ免除シタルモノト者做ス可シ

第二百七十二條

期滿所得ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル原由及ヒ其期限ノ經過ヲ停止スル原由ニ付キ期滿所

得ノ權ノ為メ定メタル規則ハ義務ヲ免除ス

ル期滿免除ノ權ニ之ヲ適用ス可シ

第二百七十三條

若シ義務ヲ行フ可キ者既ニ期滿免除ノ權ヲ得タルニ其義務ヲ行ハシム

可キ者ト謀リ他ノ義務ヲ行ハシム可キ者ノ

權利ヲ害スル為メ故ラニ期滿免除ノ權ヲ拋

棄シタル時ハ他ノ義務ヲ行ハシム可キ者ヨ

リ其期滿免除ノ權ヲ申立ツルヲ得可シ

第二百七十四條

連帶シテ義務ヲ行フ可キ数人中ノ一人又ハ主タル義務ヲ行フ可キ者期



満免除ノ權ヲ拋棄スルト虽モ其義務ヲ行フ  
可キ他ノ者又ハ保証人ノ自己ノ權利ノ為メ  
期滿免除ノ權ヲ得ルノ妨トナルヲカレ可

シ

第二百七十五條 凡ソ義務ハ十五年ヲ以テ其

期滿免除ノ期限ナリトス但シ後ノ數條ニ記

スル所ト法律上ニ別段定メラル所トハ格別

ナリトス

第二百七十六條 醫師ノ診察料、商人ヨリ商人

ニ非タル者ニ賣拂フタル商品ノ代金子等ヨ

リ授業師ニ納ム可キ謝金、僕婢ノ雇賃ハ三百

六十日ヲ以テ其期滿免除ノ期限ナリトス但

シ右三百六十日ノ時間ニ同一ノ原因ニ付キ

更ニ義務ノ生スルヲアルモ亦同様ナリトス

第二百七十七條 使吏及ヒ書記官ノ書類ヲ記

シタルニ付キ典フ可キ謝金ハ其書類ヲ記シ

タル訴訟ノ終リレヨリ三百六十日ヲ以テ其

期滿免除ノ期限ナリトス但シ其書類ヲ記シ

タルノミニテ訴訟ノ手續ヲ為サ、ル時ハ之

ヲ記シタルヨリ三百六十日ヲ以テ期滿免除



ノ期限ト為ス可シ

第二百七十八條 年賦金、養老金、土地又ハ家屋  
ノ借賃、借金、利息及ヒ其他毎歳拂フ可ク又  
ハ更ニ短キ期限ヲ以テ拂フ可キ諸件ハ「アラ  
ビ」曆ニ從ヒ算計シタル五年ノ時間ヲ以テ  
期滿免除ノ期限ナリトス

第二百七十九條 三百六十日又ハ更ニ短キ期  
限ニテ期滿免除ノ權ヲ得可キ場合ト商業手  
形類ニ付キ商法上ニ定メラル場合トニ於テ  
ハ期滿免除ノ權ヲ得タリト述フル者真ニ其

義務ノ免除ヲ得タル誓ヲ為スニ非サレハ其  
務ノ免除ヲ得カラズ

第二百八十條 寡婦遺物相續人及ヒ此等ノ者  
ノ後見人ハ義務ヲ負フタルトヲ知ラサルノ  
誓ヲ述フ可シ

### 第六章 義務ノ証及義務免除ノ証

第二百八十一條 義務ノ証ハ義務ヲ行ハシム  
可キ者ヨリ之ヲ立ツ可シ

第二百八十二條 義務免除ノ証ハ義務ヲ行フ  
可キ者ヨリ之ヲ立ツ可シ



第二百八十三條 商業上ノ事件ヲ除クノ外總  
テノ事件ニ付キ一千<sup>1</sup>ピアストル以上ノ金高  
又ハ物品ニ管シタル時或ハ價高ノ定マラサ  
ル物品ニ管シタル時ハ義務ノ証又ハ義務免  
除ノ証ヲ立テント為ス者ヨリ証人又ハ思料  
ヲ以テ其証ヲ立ツ可カラス但シ其者其時ノ  
模様ニ因リ右等ノ証ヲ立ツル書類ヲ得ルコ  
能ハサル時ハ格別ナリトス

第二百八十四條 前條ニ記シタル者ハ訴訟法  
ニ定メタル法式ヲ以テ相手方ヲ問糺ス可キ

トテ裁判所ニ訴ヘ又ハ相手方ニ誓ヲ為ス可  
キトテ要メテ相手方ノ自認ヲ得ント求ムルコ  
トヲ得可キノミトス

第二百八十五條 然レモ本人ノ記シタル書類ニ  
因リ其義務ヲ負フタルト又ハ義務ノ免除ヲ  
得タルトノ實ニ近キ時ハ証人又ハ思料ヲ以  
テ証ヲ立ツルコトヲ得可シ

第二百八十六條 又偶然ノ事ニ因リ証書ヲ失  
フタルノ確証アル時ハ前條ト同一ナリトス

第二百八十七條 義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ



証書ノ正本又ハ執行ノ文詞ヲ記シタル其寫  
書<sup>エキスバ</sup>シラシテ<sup>エキロキ</sup>トワシルヲ義務ヲ行フ可キ者ニ  
渡シタル時ハ義務免除ノ証アリトス

第二百八十八條 然レモ義務ヲ行ハシム可キ  
者ハ義務ヲ免除スルヨリ更ニ他ノ原因ニ付  
テ義務ヲ行フ可キ者ニ証書ヲ渡シタル旨ヲ  
証人ヲ証セシムルヲ得可シ

第二百八十九條 義務ヲ執行ニ始メタル時ハ  
裁判役其時ノ模様ニ因リ証人又ハ思料ヲ以  
テ証ヲ立ツルヲ許スヲ得可シ

第二百九十條 利息及ヒ年賦金ヲ拂フタル時  
ハ証書ニ據ラスシテ主タル義務ノ証ヲ立ツ  
ルヲ得可シ

第二百九十一條 書類ヲ以テ十分ナル証ト為  
ス可カラサルカ如キ景状ナル時ハ裁判役ヨ  
リ義務ヲ行ハシム可キ者ニ其義務ノ証ヲ立  
ツル為メ誓ヲ為スヲ命シ又ハ義務ヲ行フ可  
キ者ニ其義務免除ノ証ヲ立ツル為メ誓ヲ為  
スヲ命スルヲ得可シ

第二百九十二條 又義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ



行ハシム可キ者ト互ニ誓ヲ為スヲ求ムル  
ヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ誓ヲ為ス可キ  
ノ求メヲ受ケタル者ヨリ相手方ニ誓ヲ反シ  
求ムルヲ得可シ

第二百九十三條 一方ノ者相手方ニ誓ヲ為ス  
可キヲ求メタル時ハ其他ノ証ヲ立ツルノ  
方法ヲ抛棄シタルト看做ス可シ

第二百九十四條 証書ノ公正ナル時即チ相當  
ナル官吏ノ面前ニ於テ証書ヲ記シタル時ハ  
其官吏ノ偽証ヲ為シタル訴フルニ至ル迄如

何ナル人ニ對スルニ其証書ヲ以テ確證ト為  
ス可シ

第二百九十五條 私ノ証書ハ之ヲ記シタリト言  
拭ケラレシ者之ヲ記シタルヲナシト述フル  
迄又ハ之ニ姓名ヲ手署シタリト言拭ケラレ  
シ者手署シタルヲナシト述フル迄ハ双方ノ  
間ニ於テ公正ノ証書ト同レキ証ト為ス可シ

第二百九十六條 私ノ証書ハ其日附ノ正カナ  
ル時ニ非サレハ管係ナキ者ニ對シテ証ト為  
ス可カラズ



第二百九十七條

私ノ証書ノ日附ラシテ正カ  
ラシムルニハ其全文又ハ抜抄シタル文ヲ  
公ケノ簿冊ニ記入シテ且其証書ニ右記入ノ  
旨ヲ記載シ又ハ既ニ死去ビシ人ノ認メラレ  
タル自筆ノ書又ハ姓名ノ手署又ハ相當ノ官  
吏或ハ裁判役ノ捺印アルヲ必要トス

第二百九十八條

証書ニ義務免除ノ旨ヲ記シ  
タル時ハ縱令義務ヲ行ハシム可キ者ノ姓名  
ノ手署ナシト雖モ義務免除ノ証ト為ス可シ

第二百九十九條

執行ノ文詞ヲ記セシ寫ヲ除

クノ外其他總テ公ケノ官吏ノ記セシ証書ノ  
寫ハ其正本ヲ差出スル能ハサル時裁判役其  
寫ヲ以テ證據ト為ス可キヤ否ヲ鑑定ス可シ  
但シ右ノ寫ハ少クモ證據ノ端緒ト為ス可シ

第三百條

義務ヲ行フ可キ者モ之ヲ行ハシム

可キ者モ以前ト同シク且原告モ被告モ以前  
ト同シキ時ハ既ニ終審ノ裁判ヲ経クル事ノ  
力佛蘭西民法第一千三百三十一條見合ニ  
因リ其確證アリトシ  
之ニ反シタル證ヲ立ツルヲ許ルカス

第三百一條

裁判所ニ於テ一方ノ者其義務ノ

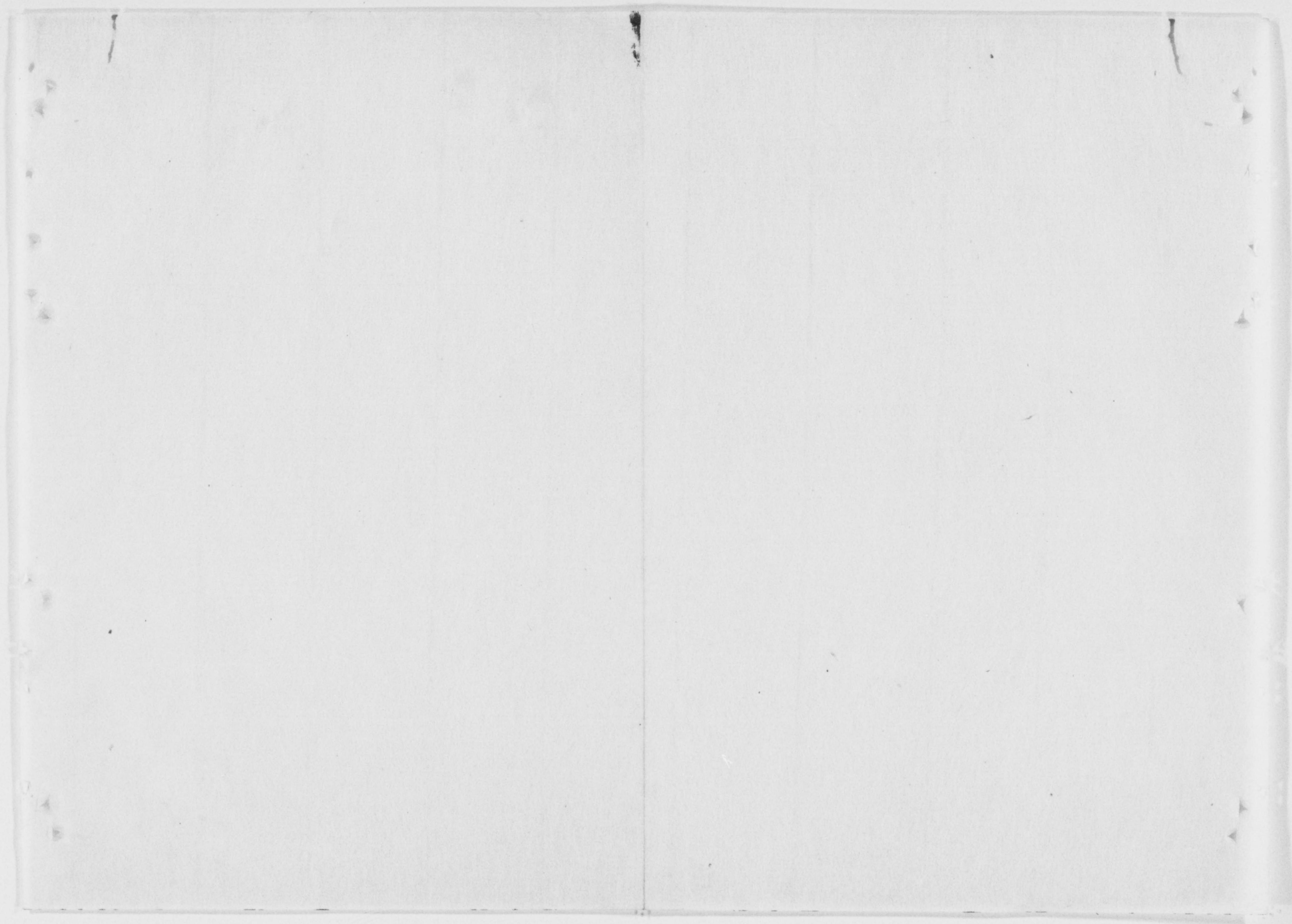


一部ヲ行ヒ他ノ一部ヲ行ハサル旨ヲ自認シ  
タル時ハ相手方ノ者其義務ノ一部ヲ行ハシ  
メタルハ虚ニシテ他ノ一部ヲ行ハシメサルハ  
実テルヲ述フ可カラズ

第三百二條 商業上ノ事ニ付テハ賣買及ヒ其

他諸般ノ契約ヲ証人及ヒ思料ニ回リ又ハ其  
他諸般ノ方法ニ回テ証スルヲ得可シ







司  
法  
部  
民  
法  
課

明七  
臨時第九號ノ内

埃及  
法律書  
及  
民法草案

三十九葉半

卷三



第三篇 各種ノ契約

第一章 賣買ノ契約

第一款 總テ賣買ノ契約

第三百三條 賣買ノ契約トハ甲ヨリ物品所有ノ權及之ヲ隨意ニ為スノ權ヲ乙ニ讓リ乙ヨリ其物品ノ直打ニ當レル代價ヲ甲ニ拂フ可キ契約ヲ云フ

第三百四條 甲ハ賣ルル乙ハ買フル双方同時ニ承諾シ且其物品ト代價トヲ協議シタルニ非サレハ賣買ノ契約ヲ成就シタルモノナリトセス

第三百五條 賣買ノ契約ハ公正ノ証書又ハ私ノ証書又ハ其他ノ書面ヲ以テ之ヲ為スルヲ得可シ

第三百六條 又賣買ノ契約ハ口上ヲ以テ之ヲ為シ又ハ符號ヲ以テ之ヲ為スルヲ得可シ但シ此等ノ場合ニ於テ一方ノ者其契約ヲ為シタル覺テシト述フル時ハ相手方其証ヲ立ツルニ付テ法律上ニ定メタル証人ヲ以テ証ヲ立ツルノ規則ニ循フ可シ



第三百七條

賣買ノ契約ハ別段ノ約束ナク之

ヲ為スルヲ得又ハ期限ヲ定メテ之ヲ為スル

ヲ得又ハ別段ノ約束ヲ附加シテ之ヲ為スル

ヲ得可シ

其約束ハ未必ノ事ノ生スル迄義務ノ執行ヲ

停止ス可キ者タルヲ得可ク又ハ未必ノ事ノ

生スル時ハ義務ヲ解除ス可キモノタルヲ得

可シ

第三百八條

物品ヲ一纏ト為レテ賣買スルヲ

得可ク又ハ之ヲ度量シテ賣買スルヲ得可ク

又ハ之ヲ試ミタル上ニテ賣買スルヲ得可シ

第三百九條

又賣主又ハ買主ノ意ニ任カセ二

箇以上ノ物品中其一ヲ擇ム可キノ約束ヲ以

テ賣買ヲ為スルヲ得可シ

第三百十條

賣買ノ証書ニ代價ヲ拂フ可キ期

限又ハ賣買ニ付テノ別段ナル約束ヲ記セザ

ル時ハ現金ニテ別段ノ約束ナク賣買ヲ契約

セシモノト看做ス可シ但シ土地ノ習慣或

ハ商業上一般ノ習慣ニ因リ黙許ヲ以テ代價

ヲ拂フ可キ期限ヲ定メ又ハ別段ノ約束ヲ定



タリト思料ス可キ時ハ格別ナリトス

第二款 賣主及ビ買主

第三百十一條 賣主及ビ買主ハ法律上ニテ自  
カニ義務ヲ負ヒ得可キノ権アルヲ必要ト  
ス

第三百十二條 賣主ハ其賣ラントスル物品ヲ  
人ニ譲リ得可キノ権アルヲ必要トス

第三百十三條 賣主及ビ買主ノ承諾ハ自由ニ  
シテ且理ニ適フタルヲ必要トス

第三百十四條 買主ハ自身ニテ物品ヲ十分ニ

知得シ又ハ已レニ代テ檢視スルヲ任シタル  
名代人ヲシテ之ヲ十分ニ知得セシム可シ

第三百十五條 物品ヲ一纏ニ為シテ賣買スル

ノ約ヲ為シ買主其一部分ニテヲ檢視シタル  
時若シ買主其全部ヲ檢視シハ之ヲ買入ル

トナカル可シト思料ス可キ模様アルニ於テ  
ハ買主其賣買ノ契約ヲ解除スルノ言渡ヲ得

可シ然レモ其物品ヲ分別セシメ又ハ其價ヲ  
減セシムルヲ得可カラス若シ買主右ノ物

品ヲ一旦書入簿ニ為シ又ハ其他ノ方法ニテ



已レ、隨意ニ爲シタル上ハ前ニ記シタル契  
約解除、推ヲ行フ可カラス

第三百十六條 賣買ノ契約書ニ買主其買入レ  
ントスモ物品ヲ知リタル旨ヲ記スル時ハ買  
主其物品ヲ知ラサルニ付キ其契約ヲ取消ス  
可キノ推ヲ失フ可レ但シ買主賣主ニ詭欺ア  
ルヲ証スル時ハ格別ナリトス

第三百十七條 買主ノ自カラ檢視セラル物品  
又ハ名代人ヲシテ檢視セシメサル物品ヲ賣  
買ス可キ契約アリト雖モ其契約書ニ右物品

ノ何物タルヤヲ指定シ且其物品ノ重立キタ  
ル品質ヲ指定シ以テ其物品ヲ驗真シ得可キ  
時ニ非サレハ其契約ノ効ナカル可シ

第三百十八條 若シ盲人ト賣買ノ契約ヲ為シ  
其盲人其物品ヲ見ルヨリ他ノ方法ヲ以テ其  
品質ヲ知ルヲ得タル時又ハ其依頼スル名代  
人ヲシテ之ヲ檢視セシメタル時ハ其賣買契  
約ノ効アリトス

第三百十九條 最後ノ疾病中遺物相續人中ノ  
一人ニ物品ヲ賣渡ス契約ハ各相續人皆之ヲ



確定スルニ非サレハ其効ナカル可シ

第三百二十條 若シ前條ノ場合ニ於テ遺物相  
續人ニ非サル者ニ物品ヲ賣渡ス契約ヲ為シ  
タル時其物品ノ價賣主ノ財産三分一ノ價ニ  
過キサルニ於テハ其契約ノ取消ヲ訴フ可カ  
ラス

第三百二十一條 若シ賣渡シタル物品ノ價死  
去シタル賣主ノ財産三分一ノ價ニ過クル時  
ハ買主其賣主ノ遺物相續人ヨリノ求メニ曰  
リ或ハ賣買ノ契約ヲ廢シ或ハ死去シタル賣

主ノ財産三分二ノ價ノ缺ケタル部分ヲ其相  
續人ニ渡ス可シ

第三百二十二條 前二條ノ規則ハ本國ノ法律  
ヲ以テ其人推テ規定ス可キ賣主ノ之ニ通シ  
用フ可シ  
又前二條ノ規則ヲ以テ其物品ニ付キ不動産  
書入簿ノ権ヲ有スル債主又ハ公正實ニ代金ヲ  
出シ其物品ヲ買入レタル者ノ權利ヲ害ス可  
カラス

第三百二十三條 裁判役書記官使吏代言人ハ



其職務ヲ行フ裁判所ノ所轄タル訴訟ヲ為ス  
權ノ全部又ハ一部ヲ自カラ買受クルコトヲ得  
ス又他人ヲ引入セシメ之ヲ買受クルコトヲ得  
ス縱令之ヲ買受クルトモ其効ナカル可シ  
右ノ場合ニ於テハ當然其賣買契約ノ効ナク  
シテ何人ニ限ラス之ニ管係アル者ノ求メニ  
目リ又ハ裁判所ノ公務ヲ以テ其取消ヲ言渡  
ス可シ

第三百二十四條 後見人又ハ管財人ノ如キ法  
律上ノ名代人又ハ契約ヲ為シテ任シタル名

代人ハ其名代人タルノ職務ヲ以テ賣拂フ可  
キ物品ヲ自カラ買入ル可カラズ  
右ノ場合ニ於テハ賣拂ヲ為ス本人其賣拂ノ  
契約ヲ確定ス可シ但シ之ニ旨為メハ本人其  
契約ヲ確定スル時已レノ財産ヲ人ニ譲リ渡  
シ得ルノ權ヲ有スルコトヲ必要トス

第三款 賣買ス可キ物件

第三百二十五條 賣買ス可カラサル物又ハ價  
ヲ見積ル可カラサル物又ハ引渡ス可カラサ  
ル性質ノ物ノ賣買契約ハ其効ナカル可シ



第三百二十六條 特ニ定メタル物品又ハ物品

ニ付テノ共通所有ノ權又ハ物品ニ付テノ特

ニ定マリシ所有ノ權ハ之ヲ賣買スルヲ得

可シ

又種類ノミヲ定マリシ物品ヲ賣買スルヲ

得可シ

第三百二十七條 種類ノミヲ定マリシ物品ヲ

賣買スル契約ヲ為ス時ハ其物品ノ種類互ニ

相易ユルヲ得可ク且其數其大ヲ其度量ノ

畧定マリ双方ノ理ニ適シ承諾セシヲ知リ得

可キ者タルニ非サレハ其契約ノ効ナカル可

第三百二十八條 又物件所有ニ管セサル權又

ハ他人ヲシテ義務ヲ行ハシム可キ權ヲ賣買

スルヲ得可シ

第三百二十九條 未ク結ハサル樹菓又ハ未ク

生ヒサル穀類ヲ賣買スル契約ハ其効ナカル

可シ

第三百三十條 然レモ既ニ結ヒタル樹菓又ハ

既ニ生シタル穀類ノ賣買ヲ契約シタル時ハ



其契約ノ後結ビタル樹葉又ハ其契約ノ後生  
シタル穀類ヲモ亦其契約中ニ保含ス可シ

第三百三十一條 現ニ生存スル人ノ遺物相續

ヲ為ス推ヲ賣買スル契約ハ縱令本人ノ承諾

アリト雖モ其効ナカル可シ

第三百三十二條 賣主ニ屬セサルト特ニ定マリ

シ物品ヲ賣買スル契約ハ其効ナカル可シ

然レモ其物品ノ真ノ所有者其契約ヲ確定ス

ル時ハ其契約ノ効ヲ生スルヲ得可シ

第三百三十三條 若シ賣主已レニ屬セサルヲ

知リタル物品ヲ已レニ屬スルモノト為シ賣

リタル時買主ノ正當ナルニ於テハ買主其償

ヲ求ムルヲ得可シ

第三百三十四條 若シ特ニ定メタル物品ノ所

有者ニ非サル者定メタル價ヲ得テ其所有ノ

權ト入額所得ノ權トヲ人ニ移ス可キヲ契

約シタル時ハ總テ契約ヨリ生スル義務ノ一

般ノ規則ニ循ヒ其契約ヲ處置ス可シ

第四款 賣買契約ノ効

第三百三十五條 正當ニ取結ビタル賣買契約



効ハ左、如シ

第一 買主ト其推ニ代ル可キ遺物相續人又ハ其債主トニ其買入レタル物品又ハ推利ノ所有ノ推ヲ移ス事

又物品ノ共通ノ部分ノミヲ買ヒタル時ハ其共通所有ノ推ノミヲ移ス可キ事

第二 賣主ヲレテ其賣リタル物品ヲ引渡シタル事且賣主買主ニ對シ妨害ナク其物品ヲ所有スルヲ保証ス可キ事

第三 買主ヲレテ價高ヲ拂ハシムル事

又賣買ノ契約ヲ為シタル時ハ其時ノ模様ニ  
目リ買主ヲシテ其物品ヲ擔當セシムルヲア

第一節 所有ノ推ヲ移ス事

第三百三十六條 時ニ定メタル物品ヲ賣拂フ

ツル時ハ縱令契約書ニ其引渡ノ期限ヲ記ス  
ルト雖モ買主直ニ其所有ノ推ヲ得可シ但  
レ此場合ニ於テ賣主其引渡ノ前ニ家資分散  
ヲ為ス時ハ買主其買ヒタル物品ヲ已レニ受  
取ラント求ムルノ推アリ



第三百三十七條 種類ノミラ定メレ物品ヲ賣  
買シタル時ハ之ヲ引渡シタル上ニ非サレハ  
其所有ノ權ヲ移ス可カラズ

第三百三十八條 或ル事件ノ現ニ生スル時ハ  
賣買ノ契約ヲ解除ス可キノ約束ヲ以テ物品  
ヲ賣買シタルニ於テハ直ニ其物品所有ノ  
權ヲ買主ニ移ス可シ  
又或事ノ現ニ生スル迄賣買ヲ停止ス可キ約  
束ヲ以テ賣買ノ契約ヲ為シタル時其事ノ現  
ニ生スルニ於テハ其物品所有ノ權ヲ當テ契

約ヲ為セシ時ヨリ以テ買主ニ屬シタルト看  
做ス可シ

第三百三十九條 前條ニ記スル二箇ノ場合ニ於  
テ或事ノ生スル迄ハ其權ヲ行フヲ停止ス可  
キ約束ヲ以テ賣主ヨリ右物品ニ付キ書入質  
ノ權ヲ得タル債主又ハ或事ノ生スル時ハ其  
權ヲ解除ス可キ約束ヲ以テ買主ヨリ右物品  
ニ付キ書入質ノ權ヲ得タル債主ハ其賣主ト  
買主トノ間ニ已レニ知ラレノス約束ヲ結ビ  
タルカ為ノ已レノ權ヲ害セララルハフナカル



可シ

第三百四十條 正當ノ名義アリテ且法律ニ循  
 と已レノ權利ヲ保存セシ正當ノ意アル者ニ  
 對シテハ不動産ノ買主後ノ篇ニ記スル規則  
 二循ト其賣買ノ証書ヲ簿冊ニ登記シタルニ  
 非サレハ不動産所有ノ權ヲ得タルモノトス  
 可カラス又權利ノ買主ハ此篇ニ記スル所ニ  
 循ト其賣買証書ヲ送達シテ右ノ者ノ承諾ヲ  
 得タルニ非サレハ右ノ者ニ對シテ其權利ヲ  
 得タルモノトス可カラス

第二節

品物ノ引渡及ヒ品物ニ

付テノ保証

第一則

品物ノ引渡

第三百四十一條 品物ノ引渡トハ品物ヲ買主  
 二渡シ買主ヲシテ之ヲ所有シ且妨ケテ其  
 利益ヲ得セシムルヲ云フ  
 又賣主其品物ヲ買主ノ隨意ニ為ス可キ模様  
 ト為シ且其旨ヲ買主ニ知ラシメタル時ハ縱  
 令買主現ニ之ヲ受取ラスト雖モ賣主其引渡  
 ノ義務ヲ行フタルモノトス



第三百四十二條 品物ノ引渡方ハ其品物ノ種

類ニ因テ互ニ相異ナリ

故ニ不動産ヲ引渡ス可キ時其不動産家屋タ

ルニ於テハ其鎖鑰ヲ渡シ又土地タルニ於テ

ハ其証券ヲ渡ス可シ但シ之レカ為メハ買

主其不動産ヲ所有スルニ妨害ナキヲ必要

トス

又動産ヲ引渡ス可キ時ハ現ニ其動産ヲ引渡

シ又ハ之ヲ入レタル倉庫ノ鎖鑰ヲ渡ス可シ

又品物ノ買主既ニ以前ヨリ其品物ヲ賣買ニ

非ナル名義ヲ以テ已レニ保有レタル時ハ賣

主ト買主ト双方ノ承諾ノニテ其引渡ヲ成

就レタルモト為ス可シ

第三百四十三條 賣買レタル權利ニ付テハ其

証書ヲ渡シ又ハ賣主ヨリ買主ニ其權利ヲ行

フヲ許ルレタルヲ以テ其權利ヲ引渡レタル

モノト為ス可シ但シ之レカ為メハ買主其

權利ヲ行フニ妨害ナキヲ必要トス

第三百四十四條 買主其約束通りノ代價ヲ拂

ハス且賣主ノ承諾ナク其物品ヲ所有ト為ス



時ハ其所有ノ効ナク賣主其所有ノ權ヲ復ス  
ルヲ得可シ

又右ノ場合ニ於テ買主ノ其品物ヲ所有スル  
時間ニ其品物ノ滅尽スル時ハ買主其損失ヲ  
擔當ス可シ

第三百四十五條 賣買シタル品物ハ其賣買ノ  
時所在ノ場所ニ於テ之ヲ引渡ス可シ但シ之  
ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第三百四十六條 若シ賣買ノ契約書ニ其品物  
ノ現ニ在ル場所ニ非サル場所ヲ其所在ノ地

ナリト指定ムル時ハ賣主買主ヨリノ要メニ  
應シ其品物ヲ其現ニ在ル場所ヨリ特ニ指定  
シタル場所ニ運送セサル可カラズ

若シ又其運送ヲ為ス能ハス又ハ其運送ニ因  
リ買主ノ損失タル可キ遅延ヲ生スル時賣主  
ニ不正ノ事アルニ於テハ買主損失ノ償ヲ得  
テ賣買ノ契約ヲ取消スヲ得可シ

第三百四十七條 賣買シタル品物ノ引渡ハ契  
約書ニ定メタル期日ニ之ヲ為ス可シ若シ契  
約書ニ其引渡ノ期日ヲ定メサル時ハ賣買ノ



時直キニ之ヲ引渡ス可シ但シ習慣ニ於テ其引渡期日ノ定マリタル場合ハ格別ナリトス  
第三百四十八條 買主賣主ニ品物ノ引渡ヲ要  
ノツル後賣主猶之ヲ引渡サ、ル時ハ買主其  
賣買ノ契約ヲ取消シ又ハ其品物ヲ已レノ所  
有ト為スヲ得可シ但シ此場合ニ於テ賣主  
ノ所為ニ因リ其引渡ヲ遅延シタル時ハ買主  
其損失ノ償ヲ得ント要ハルヲ得可シ

第三百四十九條 賣主ハ契約シタル代價ノ全  
部又ハ一部ヲ現金ニテ受取ル迄其賣リタル

品物ヲ引留メ置クノ権アリ但シ買主ヨリ保  
証品ヲ出シ又ハ保証人ヲ立ツル時ト雖モ亦  
之レニ同シ然レモ其賣買ノ契約ヲ為シタル  
後代價ヲ拂フニ付テノ猶豫ノ期限ヲ定メタ  
ル時ハ格別ナリトス

第三百五十條 賣主已レノ意ヲ以テ買主ニ物  
品ヲ引渡シタル時ハ縱令其代價ヲ受取ラズ  
ト雖モ其引渡シタル物品ヲ取戻ス可カラズ  
但シ此場合ニ於テハ買主賣買ノ契約ノ如ク  
執行ハサルニ付キ賣主其契約ヲ取消スノ権



アリ

第三百五十一條 賣主ヨリ代價ノ全部又ハ一部ヲ受取ル為ノ買主ニ催促書ヲ送リタル時ハ賣主品物ノ引渡ニ付キ故障ヲ述フ可カラズ

第三百五十二條 若シ買主代價ヲ拂フ為メ立テタル保証高ヲ減シタル時又ハ其家産衰敗シテ賣主其代價ヲ得可カラサルノ恐アル時ハ縱令其代價ヲ拂フ可キ期限ノ至ラサル前ト虽モ賣主其品物ヲ已レニ引留ムルヲ得

可シ但シ買主ヨリ賣主ニ保証ヲ立テタル時ハ格別ナリトス

第三百五十三條 若シ買主ノ家資分散ヲ為シタル時ハ賣主商法ノ規則ニ循ヒ其賣リタル物品ヲ引留メ又ハ引渡シタル物品ヲ取戻スノ權ヲ行フ可シ

第三百五十四條 引渡ノ費用引渡ノ地ニ運送スル費用度量ノ費用等ハ賣主之ヲ擔當ス可シ

第三百五十五條 引渡ノ地ヨリ他所ニ運送ス



ル費用並ニ代價ヲ拂フ費用ハ買主之ヲ擔當  
ス可シ

又契約書ノ費用モ買主之ヲ擔當ス可シ

但シ商業習慣ニ之ニ反シタル定メアル時ハ

格別ナリトス

第三百五十六條 品物ヲ引渡ス時ハ其主品ト

品物ノ種類及ヒ双方ノ意見ニ因リ其主品ノ

缺ク可カラサル附従品ナリト看做ス可キ諸

件トヲ引渡ス可シ

第三百五十七條 後ノ數條ニ記列シタル場合

於テ契約書中ニ別段約定セシ事アラサル時

ハ左ノ規則ヲ遵守ス可シ但シ各地ノ習慣ハ

例外ナリトス

第三百五十八條 乳汁ヲ生スル牝牛ヲ賣リタ

ル時ハ其乳汁ヲ飲マシムル牛仔ヲモ亦保會

ス可シ

第三百五十九條 園庭ヲ賣リタル時ハ園庭内

ニ植エタル樹木ヲモ亦保會ス可シ但シ既ニ

成熟レタル樹菓並ニ鉢ニ植エ又ハ培樹場中

ニアル小樹ハ保會スルヲナシ



第三百六十條 土地ヲ賣ルト虽氏穀州ヲ保含  
ス可カラズ

第三百六十一條 家屋ヲ賣ル時ハ其家屋ニ附  
着シメル品物ヲ保含ス可シ但シ破毀セス除  
去スルヲ得可キ動産ハ保含ス可カラズ  
又此事ニ付テハ其地ノ習慣ニ循フ可シ

第三百六十二條 賣主ハ契約書ニ指定ノタル  
如キ分量目方方積ノ物品ヲ引渡ス可シ

第三百六十三條 其種類互ニ相易エルヲ得可  
キ物品ヲ一纏ニ為シ賣買シタル場合ニ於テ

其物品ノ分量ヲ定メ且其分量何程ニ付キ價  
幾許タルヲ定メレ時其現ニアル所ノ分量  
其定メタル分量ニ足ラサルニ於テハ買主其  
賣買ノ契約ヲ取消シ又ハ其不足ニ准シ價ヲ  
減シテ其契約ノ如ク執行フテ自由ナリトス  
第三百六十四條 若シ現ニアル所ノ分量其定  
メタル分量ニ過クル時ハ其餘分ヲ賣主ニ  
屬セシム可シ

第三百六十五條 若シ度量シテ算計ス可キ物  
品ヲ賣買シ其物品ヲ分ツニ於テハ之ヲ破毀



ス可キ時賣買契約書ニ詳カニ其度量ヲ指定  
シ且其度量何程ニ付キ價幾許タルヲ指定シタ  
ルニ於テハ買主其賣買契約書ヲ取消シ又ハ  
其契約書ヲ保テ置キ現ニアル所ノ度量ニ准  
セシ價ヲ拂フテ其物品ヲ引取ルル自由ナリ  
トス  
若シ右ノ場合ニ於テ契約書ニ物品ヲ一纏ニ  
為シタル價ノミヲ指定シタル時ハ買主其契  
約書ヲ取消シ又ハ契約シタル價ニテ其物品  
ヲ引取ルル自由ナリトス

第三百六十六條 前數條ニ記シタル場合ニ於  
テ其錯誤契約書ニ指定シタル價ノ二十分一  
以上タル時ニ非サレハ買主其契約書ヲ取消  
ス可カラス

第三百六十七條 賣買ノ契約書ヲ取消ス可キ  
時賣主既ニ代價ヲ受取リタルニ於テハ其代  
價ト契約ノ費用並ニ買主ノ正當ニ出シタル  
費用トヲ還ス可シ

第三百六十八條 買主別段ノ約束ヲ定メス物  
品ヲ已レニ引取リレ後之ヲ書入質ニ為シタ



ルニ回リ又ハ其他ノ方法ニ回リ其物品ノ錯  
誤又ハ其物品ノ品質ヲ知りタル時ハ買主其  
賣買ノ契約書ヲ取消スノ権ナシ

第三百六十九條 買主ノ賣買契約ヲ取消サン  
トスル訴又ハ代價ヲ減セントスル訴並ニ賣  
主ノ増代價ヲ得ントスル訴ハ其賣買契約ノ  
日ヨリ一年ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス  
第三百七十條 賣主ノ懈怠ノ有無ヲ  
問ハス物品ヲ引渡サ、ル前ニ若シ其物品ノ  
滅尽シタル時ハ賣買ノ契約ヲ解除シテ其代

價ヲ還ス可シ但シ買主賣主ヨリ物品ヲ引取  
ル可キノ催但書ヲ受テ又ハ此類ノ書面ヲ受  
ケテ猶之ヲ引取ラス又ハ契約書ニ其物品ヲ  
引取ル可キ期限ヲ定メ其期限ニ至リ猶之ヲ  
引取ラサル時ハ格別ナリトス

第三百七十一條 買主物品ヲ引取ラサル前ニ  
其品物卑悪ニ至リ其價ノ減シ若シ賣買ノ契  
約ヲ為ス前ニ其價ノ減シタル時ハ初メヨリ  
其賣買ノ契約ヲ為スナカレ可シト思料ス  
可キニ於テハ買主其契約ヲ取消シ又ハ約束



シタル價ニテ其契約ノ如ク執行フテ自由ナ  
リトス但シ買主其物品ヲ書入質ニ為スルコ  
承諾シタル時ハ格別ナリトス

第三百七十二條 若シ前二條ノ場合ニ於テ買  
主ノ過失ニ因リ物品ヲ滅尽セシメ又ハ其價  
ヲ減セシメタル時ハ買主其代價ノ全部ヲ拂  
ハサルコト得ス若シ又賣主ニ其過失アル時買  
主其賣買ノ契約ヲ取消サント欲スルニ於テ  
ハ賣主其損失ノ償ヲ擔當シ又買主其賣買ノ  
契約ヲ保タント欲スルニ於テハ賣主其價ヲ  
減ス可シ

第二則 品物ニ付テノ保証

第一種 賣買ニ管係ナキ者ヨ  
リ物品ヲ取戻サント訴フ  
フルトナキ旨ヲ賣主ノ買  
主ニ保証スル事

第三百七十三條 物品ノ買主ハ已レノ所有物  
ナリト為シ賣渡ス物品ニ付キ其賣買ノ時ニ  
當リ其物品ノ物權ヲ有スルト称スル者ヨリ  
買主ノ權ヲ妨害スルコトナカル可キ旨ヲ買主



ニ保証ス可ク又引渡ノ式ヲ行ヒ所有ノ権ヲ  
移ス可キ物品ニ付テハ其引渡ノ時ニ當リ其  
物品ノ物権ヲ有スルト称スル者ヨリ買主ノ  
権ヲ妨害スルコトナカル可キ旨ヲ買主ニ保証  
ス可シ但シ此事ニ付テハ別段契約ヲ為スニ  
及ハス○又右賣買ノ時ヨリ後又ハ引渡ノ時  
ヨリ後ニ賣主ヨリ古物権ヲ得タル者アリト  
雖モ賣主買主ニ對シテ全上ノ保証ヲ為ス可  
シ

第三百七十四條 賣主ハ買主ノ其物品ヲ有ス

ルニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クルナキヲ保証  
セサルノ契約ヲ結ブコトヲ得可シ○然レモ意  
味ノ泛キ文詞ヲ以テ其契約ヲ為シタルニ於  
テハ後ニ買主其物品所有ノ権ヲ奪ハルコト  
アル時賣主唯其損失ノ償ヲ為ス可キ義務ヲ  
免ル、ノミトシ代價ヲ還ス可キ義務ヲ免ル  
可カラス

第三百七十五條 賣主買主ノ其物品ヲ有スル  
ニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クルナキヲ保証セ  
サル契約ヲ為シタル時其代價ヲ還ス可キ義



務ヲ免ル、ニハ買主其賣買ヲ為セシ時其物  
品所有ノ權ヲ奪ハル可キノ原由アルヲ知り  
タルノ証アリ又ハ買主其物品ヲ買入ル、ニ  
付テハ何事ニ因ラス已レニ擔當ス可キ旨ヲ  
述ヘタルノ証アルヲ必要トス

第三百七十六條 若シ買主ノ所有ト為セシ物  
品ヲ已レニ取戻サント訴フル者賣主ヨリ其  
權ヲ授リ得タルニ於テハ縱令賣主買主ノ其  
物品ヲ有スルニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クル  
トキヲ保証セサル契約ヲ為シタルト虽モ其

契約ノ効ナカル可シ

第三百七十七條 賣主買主ノ其物品ヲ有スル  
ニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クルトキヲ保証シ  
タル時買主其所有ノ權ヲ奪ハル、ニ於テハ  
賣主ヨリ其損失ノ償ヲ為シ且其代價ヲ還ス  
可シ

第三百七十八條 其損失ノ償ハ契約ヲ為ス費  
用其契約ヨリ生スル費用買主ノ其買入レタ  
ル物品ニ付キ出シタル費用他人ヨリ其物品  
所有ノ權ヲ已レニ取還サント為ス訴訟ニ付